

令和4年度

事業報告書

令和4年度第12期(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)の
事業活動について、次の通り報告いたします。

令和5年3月31日

公益財団法人 国際交通安全学会

会 長 武 内 和 彦

目次

令和4年度事業活動の概況	1
1. 事業目的	2
2. 事業内容	2
3. 展開にあたっての重点	2
4. 令和4年度の特記すべき活動	2
5. 主たる会議	3
1) 評議員会	3
2) 理事会	3
3) 創50戦略会議	4
4) 企画調整委員会	7
5) 創50事業企画推進委員会	8
6) 年次交流会	9
6. その他	9
国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業	13
I 研究調査事業	14
1. 令和4年度研究調査報告会	14
2. 創50プロジェクト	15
<2200R>	
国際共同研究展開プロジェクト	15
<2200S>	
国際共同社会実装展開プロジェクト	17
3. 令和4年度研究調査プロジェクト	19
<2201A>(新規)	
SDGs達成に向けた健康資本増進による豊かな地域の創出	20
<2202A>(新規)	
自動運転車と共生する社会—その基盤整備に向けた包括的提言	22
<2203C>(継続)	
ウォークابل・シティ評価手法の開発	25
<2204B>(継続)	
アジア地域における健康起因事故防止に関する国際比較研究	27

< 2205B > (継続)	
中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定	29
< 2206A > (新規)	
人工知能を用いた効率的な交通取締りに関する研究	31
< 2207A > (新規)	
カンボジアにおける交通安全行動変容プログラムの開発と実施	34
< 2208C > (継続)	
電動モビリティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究	36
< 2220 社会貢献 >	
データベース整備に基づいた日本のラウンドアバウトの実態と事例情報の発信	38
< 2230 海外調査 >	40
< 2270 国際発表 >	41
4. 令和4年度研究調査内部報告会	42
5. 研究調査部会企画委員会	42
II 広報出版事業	45
1. 広報出版部会 学会誌編集委員会	45
2. 広報出版部会 英文論文集編集委員会	47
III 褒賞事業	50
1. 第43回(令和3年度)国際交通安全学会賞贈呈式	50
2. 第44回(令和4年度)国際交通安全学会賞	50
3. 令和4年度褒賞助成部会企画委員会	53
IV IATSS フォーラム事業	55
1. IATSS フォーラム研修 開催中止	55
2. 研修コンテンツ開発	55
3. IATSS フォーラム部会 IATSS フォーラム実行委員会	55
V 国際交流事業	58
1. 国際フォーラム実行委員会	58
2. ATRANS(Asian Transportation Research Society)への業務委託	59

3. ESRA(E-Survey of Road users' Attitudes)3 プロジェクトへの貢献	60
4. 海外研究機関等とのネットワークの維持、強化	61
VI 事業運営等	62
1. 新型コロナウイルス対応	62
2. IATSS の主たる事務所(ホンダ八重洲ビル3階)の移転	62
財務諸表	63
1. 貸借対照表	64
2. 正味財産増減計算書	65
3. 正味財産増減計算書内訳表	67
4. 財務諸表に対する注記	69
5. 付属明細書	70
6. 財産目録	71
監査報告書(別紙)	72

令和4年度事業活動の概況

1.事業目的

「理想的な交通社会の実現に寄与する」

2.事業内容

- 1)交通及びその安全に関する調査研究
- 2)交通及びその安全に関する研究会の開催
- 3)交通及びその安全に関する情報、資料及び文献の収集及び発行
- 4)交通及びその安全に関する調査研究、教育その他の活動に対する褒賞
- 5)諸外国における理想的な交通社会の実現に向けた研修
- 6)その他本会の目的を達成するために必要な事業

3.展開にあたっての重点

- 1)学際性並びに国際性を特徴とした先見性及び実際性を目指す、活力ある事業運営
- 2)社会及び経済環境を直視した事業規模とし、予定される収入を基とする効率的かつ均衡のとれた事業運営の継続

4.令和4年度の特記すべき活動

1)創立50周年(令和6年)に向けた施策推進

創50戦略会議を中心に国際性の高い事業の充実に努めているところであるが、「第8回国際フォーラム(GIFTS)」においては、「価値創造のモビリティ」をテーマとしたシンポジウムを行った。3年ぶりに会場へ聴衆をお招きしつつ、インターネットを通じた配信を含めたハイブリッド形式で開催し、会場で52名、リモートで201名の方々に聞いて頂いた。

また、各研究プロジェクトでも、バンコク、ウィーン、ミラノなどにおいて、多くの海外シンポジウム、ワークショップを開催した。

本年度より立ち上げた創50事業企画推進委員会では、「回顧」「感謝」「賞賛」「展望」を基軸とした記念企画の概要が提示され、記念イベント、出版等の計画が立案された

2)IATSSフォーラム研修事業の中止

IATSSフォーラム部会では、一部新しいフィールドスタディを準備し、秋期研修より研修生を迎える予定であったが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、研修生の安全を考慮して開催を中止した。

しかしながら、その期間を利用して、時代に即した研修コンセプトの整理を行い、新しいプログラムの開発計画を完成させた。

5.主たる会議

1)評議員会

第 24 回評議員会(定時評議員会)(R4.06.14)

経団連会館 5 階パールルームおよびオンラインにて開催し、次の(1)項については承認され、(2)、(3)項については決議され、(4)項については報告された。

- (1) 令和 3 年度事業報告および決算承認の件
- (2) 評議員選任の件
- (3) 役員選任の件
- (4) 鈴鹿 IATSS フォーラム移転状況報告

第 25 回評議員会(臨時評議員会:みなし決議)(R4.12.22)

評議員 8 名から電磁的方法による全員の同意が得られるので、以下提案を承認可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされた。

- (1) 役員選任の件

第 26 回評議員会(臨時評議員会)(R5.03.22)

経団連会館 5 階パールルームおよびオンラインにて開催し、次の(1)、(2)項について決議された。

- (1) 令和 4 年度事業計画及び収支予算書承認の件
- (2) 評議員選任の件

2)理事会

第 52 回理事会(通常理事会)(R4.05.24)

経団連会館 5 階ルビールームおよびオンラインにて開催し、次の(1)については承認され、(2)項については決議され、(3)、(4)項については報告された。

- (1) 令和 3 年度事業報告及び決算書類等の承認の件
- (2) 第 24 回評議員会(定時評議員会)招集の決議の件
- (3) 代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告
- (4) 鈴鹿 IATSS フォーラム移転状況報告

第 53 回理事会(臨時理事会)(R4.06.14)

経団連会館 5 階パールルームおよびオンラインにて開催し、次の(1)については選定され、(2)、(3)項については決議され、(4)、(5)項については報告された。

- (1) 代表理事選定の件
- (2) 顧問委嘱の件
- (3) 重要な使用人任免の件

第 54 回理事会(臨時理事会:みなし決議)(R4.12.12)

理事 11 名から電磁的方法による全員の同意が得られ、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかつたので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

- (1) 第 25 回評議員会 決議の省略の件

第 55 回理事会(臨時理事会:みなし決議)(R5.01.20)

理事 12 名から電磁的方法による全員の同意が得られ、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかつたので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があつたものとみなされた。

- (1) 業務執行理事選定の件

第 56 回理事会(臨時理事会:みなし決議)(R5.03.01)

理事 11 名から電磁的方法による全員の同意が得られ、また監事からは異議有る旨の意思表示を得なかつたので、以下提案を承認可決する旨の理事会の決議があつたものとみなされた。

- (1) 第 26 回評議員会開催の件
- (2) 第 44 回国際交通安全学会賞承認の件

第 57 回理事会(通常理事会)(R5.03.22)

経団連会館 5 階パールルームおよびオンラインにて開催し、次の(1)、(4)、(5)、(6)項については決議され、(2)、(3)項については承認され、(7)項については報告された。

- (1) 主たる事務所(八重洲事務所)移転の決議の件
- (2) 令和 5 年度事業計画書及び収支予算書等承認の件
- (3) 新会員選任および会員再任承認の件
- (4) IATSS フォーラム部会特別委員選任の決議の件
- (5) 重要な使用人任免の決議の件
- (6) 専門部会付随活動における外部識者への会長規則時限的準用の決議の件
- (7) 代表理事及び業務執行理事の自己の職務執行状況報告

3)創 50 戦略会議

「創 50 戦略会議」は、平成 27 年 3 月に会長に最終答申された「基本方針」に基づき、中長期的観点から具体的施策を展開するため設置されたものである。令和 4 年度は下記の事項について審議し承認した。

(1)創 50 戦略会議開催実績

第 1 回会議(R4.08.26)

- ・第 8 回 GIFTS の準備進捗について委員長から報告された。
- ・国際共同研究展開プロジェクトについて、第 1 期の国際比較プロジェクト、並びに GRATS 研究部会として実施された第 2 期プロジェクトの 概要と成果について報告され、その上で第 3 期として今年度からの 3 年間に実施する主な内容について紹介された。
- ・国際同社会実装展開プロジェクトについて、昨年度までの「GRATS」としての成果報告と振り返り、今年度の 2 プロジェクト体制についての説明、更に、社会実装を進める 3 つのアプローチについて紹介された。
- ・創 50 事業活動全般の進捗について委員長より報告された。
- ・「国際連携の在り方検討 WG」での議論進捗について、議長より報告された。

第 2 回会議(R4.12.15)

- ・来年度定年延長の対象となる会員 3 名の候補について審議が行われ、3 名とも定年延長候補者として理事会に上申することと決定した。

- ・第 8 回 GIFTS の開催報告が委員長よりなされた。
- ・国際共同研究展開プロジェクト、国際共同社会実装展開プロジェクトの進捗について、両 PL より報告された。
- ・創 50 事業活動全般の進捗について、委員長より報告された。
- ・「国際連携の在り方検討 WG」での議論進捗について議長より報告された。
- ・50 周年に向けての様々な活動については、会長・理事・会員からなる創 50 戦略会議は非常に大事な会議体であり、外部への発信内容など、最終的な決定についてはこの場で行っていくことが確認された。

第 3 回会議(R5.03.22)

- ・GIFTS 実行委員長より、第 8 回 GIFTS の振り返り及び第 9 回 GIFTS の企画について情報共有された。
- ・国際共同研究展開プロジェクト、国際共同社会実装展開プロジェクトの進捗について、両 PL より報告された。
- ・創 50 事業活動全般の進捗について、委員長より報告された。
- ・「国際連携の在り方検討 WG」より、議論のまとめの報告及び提案がなされた。
- ・来年度からの新規海外名誉顧問(1 名応募)、海外招待会員(3 名推薦)について審議された。

(2)国際連携の在り方検討ワーキンググループ(WG)の開催と実績

前年度創 50 戦略会議にて、若手半数、創 50 メンバー半数からなるワーキンググループを立ち上げ、そこで、将来視点に立って、現在の国際連携の在り方を検討し、提案することが決定された。

第 1 回 WG 検討会(R4.04.27)

- ・WG 発足の経緯とミッションの説明
- ・認識の共有と今後の進め方の検討

第 2 回 WG 検討会(R4.06.29)

- ・WG のミッション確認
- ・IATSS の主たる国際事業・連携の経緯、現状、課題等の整理(その 1)
:IATSS Research, GIFTS, 海外招待会員・名誉顧問制度、UNRSC

第 3 回 WG 検討会(R4.08.01)

- ・IATSS の主たる国際事業・連携の経緯、現状、課題等の整理(その 2)
:IATSS Forum, ATRANS(Asian Transportation Research Society), ESRA(E-Survey of Road users' Attitudes), JICA (Japan International Cooperation Agency)

第 4 回 WG 検討会(R4.09.20)

- ・IATSS の主たる国際事業、連携の振り返り・論点(確認)
- ・将来視点の議論:2030 年-2050 年のモビリティ社会像と あるべき・期待される IATSS の役割について、若手メンバーからの話題提供。

第5回 WG 検討会(R4.11.07)

- ・将来視点の議論:2030年-2050年のモビリティ社会像とあるべき・期待される IATSS の役割について、中村議長からのまとめ案を基に議論。

第6回 WG 検討会(R4.12.21)

- ・国際連携の在り方検討:現行の主要8事業をどう展開していくかについて、中村議長たたき台案を基に議論。

第7回 WG に向けた若手検討会(R5.02.06)

- ・第6回の議論を受けて、塩見先生が提案たたき台を新たに作成し、それに基づいて若手グループで議論し、最終資料を中村議長に提出した。

第7回 WG 検討会(R5.02.20)

- ・塩見先生提案をもとに、全体で議論し、最終提案を合意。

(3)創50 戦略会議メンバー(敬称略)

議長	中村 文彦	(IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授)
副議長	中村 彰宏	(IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
	小川 和久	(IATSS 会員/東北工業大学総合教育センター 教授)
	鎌田 聡	(IATSS 専務理事) 令和5年1月31日まで
	河合 信之	(IATSS 専務理事) 令和5年2月1日から
	上條 俊介	(IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
	岸井 隆幸	(IATSS 理事/日本大学理工学部土木工学科 特任教授)
	北村 友人	(IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 教授)
	久保田 尚	(IATSS 理事/埼玉大学大学院理工学研究科 教授)
	武内 和彦	(IATSS 会長/(公財)地球環境戦略研究機関(IGES) 理事長、東京大学 特任教授)
	谷川 武	(IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
	土井 健司	(IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
	中村 英樹	(IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
	橋居 賢治	(IATSS 常務理事兼事務局長)
	平岡 敏洋	(IATSS 会員/日本自動車研究所新モビリティ研究部 主席研究員)
	森本 章倫	(IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
	蓮花 一己	(IATSS 理事/帝塚山大学 学長)

(4)国際連携の在り方検討ワーキンググループメンバー(敬称略)

議長	中村 文彦	(IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授)
	上條 俊介	(IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
	岸井 隆幸	(IATSS 理事/日本大学理工学部土木工学科 特任教授)
	谷川 武	(IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
	栗谷川 幸代	(IATSS 会員/日本大学生産工学部 教授)
	塩見 康博	(IATSS 会員/立命館大学理工学部 教授)
	二村 真理子	(IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科経済学専攻 教授)
	馬奈木 俊介	(IATSS 会員/九州大学大学院工学研究院都市交通工学講座 教授)

4)企画調整委員会

(1)新会員紹介イベントの企画・開催

令和4年度の新会員4名を既存の関係者へ紹介し、活動の活性化を図るため、以下のイベントを企画/実施した。

IATSS 新会員デビュートーク概要

開催日：令和4年9月26日

場所：ハイブリッド開催

内容：新会員からのプレゼンおよび質疑

新会員：神田 直弥氏、塩見 康博氏、中川 由賀氏、村上 暁信氏

参加者：会場・リモート併せて43名

(新会員4名、役員・評議員4名、顧問9名、会員26名)

(2)令和5年度新会員候補者の選考

当委員会での議論の結果、新会員候補を3名選考し、会長に上申した。

(3)委員会開催実績

第1回委員会(R4.06.03)

- ・「協力会員制度」が令和3年度末で凍結となった後の、当委員会のミッションについて再度確認した。
- ・令和5年度新会員候補選考方針を検討・決定した。
- ・令和4年度の新会員デビュートーク企画案を検討・決定した。
- ・各部会委員会の年間計画を共有した。

第2回委員会(R4.10.05)

- ・新会員デビュートークの実施報告がなされた。
- ・令和5年度新会員候補者リスト39名について討議し、第一次選考の結果、25名に絞り込み、次回二次選考までに、各委員3名に事前投票することとした。
- ・各部会委員会の進捗状況を共有した。

第3回委員会(R4.11.16)

- ・令和5年度新会員候補選考について、委員による事前投票の結果一覧に基づく検討の結果、最終的に3名の会員候補を選定した。
- ・令和5年度IATSSフォーラム特別委員2名について、IATSSフォーラム部会実行委員会より提案され、企画調整委員会で承認された。

第4回委員会(R5.02.17)

- ・各部会委員会の今年度実績と来年度課題について共有した。
- ・新会員募集に関する検討事項については、来年度引き続き議論することとした。

(4)企画調整委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 中村 文彦 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授)
小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学総合教育センター 教授)
上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 教授)
谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
平岡 敏洋 (IATSS 会員/日本自動車研究所新モビリティ研究部 主席研究員)

5)創 50 事業企画推進委員会

(1)委員会開催実績

第 1 回委員会(R4.04.11)

リモートで開催され、下記事項が議論された。

- ・令和 4 年度 GIFTS との連携について
- ・各部会活動のフォローアップ体制と担当委員について

第 2 回委員会(R4.09.06)

八重洲サロンとリモートとのハイブリッドで開催され、下記事項が情報共有・議論された。

- ・各専門部会の進捗確認(50 周年記念出版)
- ・GIFTS ワークショップについて
- ・Pre-合宿について(研究調査部会企画委員会 発案)

第 3 回委員会(R4.11.15)

八重洲サロンとリモートとのハイブリッドで開催され、下記事項が情報共有・議論された。

- ・全体の進捗状況共有
- ・GIFTS ワークショップでの「回顧」と「賞賛」に関する進め方について
- ・記念出版に関する今後の進め方について

(2)委員会関連打合せ

- ・研究調査部会企画委員会委員長打合せ(R4.10.11)

令和 4 年度 GIFTS のワークショップでの話題提供内容について議論、整合した。
(土井委員長、谷川委員長)

- ・褒賞助成部会企画委員会委員長打合せ(R4.10.21)

令和 4 年度 GIFTS のワークショップでの話題提供内容について議論、整合した。
(土井委員長、小川委員長)

(3)企画委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
委員 大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)
小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)
森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
矢ヶ崎 紀子 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科コミュニティ構想
専攻 教授)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

6)年次交流会

新型コロナ感染拡大防止のため中止とした。

6.その他

1)人事関連の登記事項

(1) 評議員

氏名	登記事項	登記日
野田 健	6月14日評議員退任に伴う抹消登記	令和4年7月4日
野村 義人	6月14日評議員辞任に伴う抹消登記	令和4年7月4日
深草 雅利	6月14日評議員退任に伴う抹消登記	令和4年7月4日
佐々木 真郎	6月14日評議員就任に伴う登記	令和4年7月4日
友竹 明彦	6月14日評議員就任に伴う登記	令和4年7月4日

(2) 理事

安部 典明	6月14日代表理事退任に伴う抹消登記	令和4年7月4日
安部 典明	6月14日代表理事就任に伴う登記	令和4年7月4日
河合 信之	1月1日理事就任に伴う登記	令和5年2月8日
鎌田 聡	1月31日理事辞任に伴う抹消登記	令和5年2月8日

*重任に伴う登記情報は記載しておりません

2)理事及び監事

(R5.03.31 現在)

役 職〔勤務〕	氏 名(敬称略)	現職〔国家公務員出身者最終官職〕
会 長〔非常勤〕	武内 和彦	(公財)地球環境戦略研究機関(IGES)理事長 東京大学特任教授
副会長〔非常勤〕	安部 典明	本田技研工業(株)執行役常務
専務理事〔常勤〕	河合 信之	本田技研工業(株)特別職 〔関東管区警察局長〕
常務理事〔常勤〕	橋居 賢治	本田技研工業(株)主幹
理 事〔非常勤〕	遠藤 昭雄	〔文部科学省国立教育政策研究所長〕
	鎌原 俊二	日本文化大学学長 〔大阪府警察本部長〕
	岸井 隆幸	(一財)計量計画研究所代表理事 政策研究大学院大学客員教授
	久保田 尚	埼玉大学大学院理工学研究科 環境科学・社会基盤部門教授
	深澤 淳志	(一財)日本建設情報総合センター理事長 〔国土交通省道路局長〕
	宮寄 拓郎	救急ヘリ病院ネットワーク理事 (公社)自動車技術会フェロー 〔国土交通省自動車交通局技術安全部長〕
	蓮花 一己	帝塚山大学学長
監 事〔非常勤〕	鈴木 雅文	本田技研工業(株)取締役監査委員会委員
	平田 久美子	税理士/平田久美子税理士事務所

3)評議員

(R5.03.31 現在)

氏名(敬称略)	現職
鎌田 聡	(株)ジャパン・アイディー顧問 *令和5年3月22日評議員会にて決議
栗原 典善	OFFICE NORI 代表
木場 宣行	(一社)日本自動車整備振興会連合会専務理事
斎藤 毅	本田技研工業(株)執行職
佐々木 真郎	(公財)交通事故総合分析センター理事長
友竹 明彦	(公財)三井住友海上福祉財団専務理事
林 良嗣	中部大学持続発展・スマートシティ国際研究センター卓越教授
宮田 年耕	(一財)道路新産業開発機構理事長

4)共催等

(1)共催

①15th ATRANS Annual Conference

～“Transportation for Better Lives: Resiliency, sustainability,
and safety in transportation system”～

開催日 :令和4年8月26日(金)

場所 :Chatrium Hotel Riverside Bangkok, Bangkok, Thailand

主催 :ATTRANS、(公財)国際交通安全学会

(2)協賛

①令和4年春の全国交通安全運動

開催日 :令和4年4月6日(水)～15日(金)

主催 :内閣府、警察庁、他23機関/団体

②令和4年秋の全国交通安全運動

開催日 :令和4年9月21日(水)～30日(金)

主催 :内閣府、警察庁、他23機関/団体

③令和4年度 交通安全フォーラム 新たなモビリティに対応した交通安全対策

開催日 :令和5年1月24日(火)

Youtube ライブ配信

主催 :内閣府、神奈川県

(3)後援

無し

国内外の「交通安全」にかかわる社会貢献事業

I 研究調査事業

1. 令和3年度研究調査報告会(R4.04.08)

参加者：役員、評議員、顧問、会員、特別研究員、諸官庁、報道関係及び一般参加者 計 127 名
場所：経団連会館 経団連ホールでの対面及びオンラインでのハイブリッド開催

報告テーマ：

- 2102C 広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による安全性向上に関する研究
- 2105A 中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定
- 2107B 日本のラウンドアバウトデータベースと事例集の整備
- 2122 ASEAN 地域での速度認知に着目した二輪運転者の危険予測教育プログラムの開発

2.創 50 プロジェクト

<2200R>

国際共同研究展開プロジェクト

(1) 研究目的と概要

本プロジェクトは、世界各国における交通安全文化に関する地域的差異を客観的に認識し、体系的に理解することを目指した創 50 戦略研究プロジェクトの第 3 期 1 か年目に位置づけられるものである。本年度は、交通安全文化の差異に基づく交通事故リスク因果構造の解明に向けて、世界 48 か国における ESRA2 データを、国際機関による公開統計データなどと組み合わせて用いた構造方程式モデルの開発に着手した。現在までのところ、第 2 期プロジェクトで開発した独自データに基づく構造方程式モデルと類似の構造により、3E(Engineering, Education, Enforcement)と運転態度・行動、交通違反・交通事故経験に至るメカニズムを表現できることを確認できた。

また、ESRA2 データを用いて、利用交通手段や職業ドライバーなどのセグメントに着目した不安全行動や交通事故リスクに関する国際比較分析を行った。その結果、利用交通手段別分析においては、公共交通利用者・歩行者の認識と自動車運転者の意識に大きな乖離がみられることがわかった。また、職業ドライバーに関する分析の結果、不安全行動に対する認識が各国の特に発展段階に応じて大きく異なり、2～3 のグループに分類できることが明らかとなった。

令和 5 年 3 月 8～9 日に、イタリアのミラノ工科大学において国際ワークショップを開催し、上記の研究経過に関して議論を行った。

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(R4.07.04)
 - プロジェクトの趣旨の確認と進め方の議論
 - ESRA2 データを用いた各分析提案の報告と議論
- ・第 2 回研究会(R4.08.29)
 - ESRA2 データを用いた各分析提案の報告と議論
 - 国際ワークショップ/全体会議の計画検討
- ・第 3 回研究会(R4.10.14)
 - ESRA2 データを用いた各分析提案の報告と議論
 - 国際ワークショップ/全体会議の計画検討
- ・第 4 回研究会(R5.02.15)
 - ESRA2 データを用いた各分析提案の報告と議論
 - 国際ワークショップ/全体会議の内容確認
 - 国際会議(WCTR2023)でのスペシャルセッション企画の検討
- ・国際ワークショップ/全体会議(R5.03.08～09)
 - ミラノ工科大学にてプロジェクトの方向性とこれまでの研究成果に関する議論(イタリア・ミラノ)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
塩見 康博 (IATSS 会員/立命館大学理工学部 教授)
鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)

特別研究員

井上 勇一 (IATSS 顧問)
鈴木 一史 (群馬工業高等専門学校環境都市工学科 准教授)
鳥海 梓 (東京大学生産技術研究所 人間・社会系部門 助教)
Ghassan Abu-Lebdeh (Professor, American University of Sharjah, UAE)
Mohamed Shawky Ahmed (Associate Professor, Ain Shams University, Egypt)
Wael K. M. Alhajyaseen (Associate Professor, Qatar University, Qatar)
Nicola Christie (Professor, University College London, UK)
Tina Gehlert (German Insurers Accidents Research, Germany)
Nan Kang (Associate Professor, Nanjing Tech University, China)
Babak Mehran (Assistant Professor, Manitoba University, Canada)
Lorenzo Mussone (Associate Professor, Politecnico di Milano, Italy)
Keshuang Tang (Professor, Tongji University, China)
Wouter Van den Berghe (Tilkon BV, Belgium)
Axel Wolferrmann (Professor, Hochschule Darmstadt, University of Applied Sciences, Germany)

<2200S>

国際共同社会実装展開プロジェクト

(1) 研究目的と概要

令和元年から着手された GRATS(令和元年-令和3年)の活動の主たる目標は、交通文化観点で国際比較調査を実施するとともに、国内外の研究者や研究機関・国際機関と連携することにより、先進的な交通政策を討議・提案するための共通のプラットフォームを構築することであった。その成果として令和3年国際フォーラム(GIFTS)で示された「共有ビジョン」に基づき、その中の「指標」については学術レベルの取り組みとして ESRA と連携しながら国際比較研究を継続実施していく役割として、令和4年度から「国際共同研究展開プロジェクト」が立ち上がった。また同時に「セーフシステム」については、実務レベルの取り組みとして社会実装を担う本プロジェクト「国際共同社会実装展開プロジェクト」が開始された。

本プロジェクトに於いて、社会実装を進める3つのアプローチとして、「1.情報連携」「2.評価」「3.教育」を設定した。「情報連携」については、まずは国際協力機構(JICA)との連携を強化し、その取り組みに於いて一つの連携のモデルを構築し、他研究機関や国際機関へ連携拡大を狙うものとする。「評価」については、道路交通安全都市データベースの構築、「教育」については、IATSSフォーラム等との連携により、アジアを中心とする発展途上国の継続的な人材育成を目指すものとする。

(2) 研究経過

・第1回研究会(R4.07.05)

プロジェクトの目指すところ、主な活動について
令和4年度の活動計画について

・第2回研究会(R4.10.12)

国際機関との情報連携について
道路交通安全都市データベースの構築について
持続的な人材育成について

・第3回研究会(R4.12.12)

IATSS 研究成果の活用、途上国支援への活用について
JICA プロジェクト(研究用に提供できる交通・安全に係わるデータ)について
JICA 課題別研修「交通安全」について

・第4回研究会(R5.03.02)

JICA 道路交通安全クラスター戦略の説明
JICA との連携プロジェクトについて(JICA 技プロ、IATSS 研究、事故データベースなど)
令和5年度の活動方針(JICA、ADB との連携など)

(3) プロジェクトメンバー

PL 森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)
吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公大大学院工学研究科 准教授)

特別研究員

- 赤羽 弘和 (IATSS 顧問/千葉工業大学創造工学部 教授)
- 福田 敦 (IATSS 顧問/日本大学理工学部 教授)
- 長田 哲平 (宇都宮大学地域デザイン科学部 准教授)
- 北野 尚宏 (早稲田大学理工学術院 教授)
- 小泉 幸弘 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 次長)
- 近藤 竜平 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 主任調査役)
- 小柳 桂泉 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 参事役)
- 吉田 綾 (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 専門嘱託)
- 渡邊 すみれ (独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 副調査役)
- 可児 貴明 (内閣府 交通安全企画調査専門官)

3.令和4年度研究調査プロジェクト

令和4年度は、次の9件の研究調査プロジェクト等を実施した。

《自主研究》

- 2201A SDGs達成に向けた健康資本増進による豊かな地域の創出
- 2202A 自動運転車と共生する社会—その基盤整備に向けた包括的提言
- 2203C ウォークアブル・シティ評価手法の開発
- 2204B アジア地域における健康起因事故防止に関する国際比較研究
- 2208C 電動モビリティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究

《行政・団体連携》

- 2205B 中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定
- 2206A 人工知能を用いた効率的な交通取締りに関する研究

《IATSS フォーラム連携》

- 2207A カンボジアにおける交通安全行動変容プログラムの開発と実施

《社会貢献》

- 2220 データベース整備に基づいた日本のラウンドアバウトの実態と事例情報の発信

<2201A>

SDGs 達成に向けた健康資本増進による豊かな地域の創出

(1) 研究目的と概要

日本では人口減による地域の疲弊は、特に都市部よりも地方において顕著な社会課題となっている。本提案の別府市等の温泉地は、人口減、観光客の減少による地域経済の疲弊が起こっている。本プロジェクトでは、地域資源の科学的根拠を実証し、適切に活用することで、地域や来訪者の健康を増進し、地域の活性化と人的資本の増進を推進することを目的とする。別府市はもとより、他の温泉地域も含めて行政と連携して、温泉地(自然資本)を活用して、健康(健康資本)に資する交通・まちづくりの在り方と地域ごとの取り組みを進める。

目的達成のために、まず地域資源の科学的根拠を実証すること(テーマ A)、および駅からの周遊のためのウォーカビリティを含む交通および、まちづくりの検討(テーマ B)を進めてきた。

(A) 温泉入浴の健康効果について、腸内細菌叢解析を用いて研究を進めており、既の実証実験が開始されている。

(B) 温泉と交通・まちづくりの要素の関係性について分析を行っている。大分県別府温泉、大分県湯布院温泉、兵庫県有馬温泉、熊本県黒川温泉について視察を行い、駅周辺のアクセシビリティ、ウォークアブルに関わる指標について調査を行った。

令和5年度に向けては以下の通り推進する。

(A) 実証実験で得られた結果から、地域資源である温泉の健康増進効果を明らかにする

(B) 各温泉地域の交通・ウォークアブルについて評価し、地域住民と来訪者のまちづくりのあり方を提案する

(2) 研究経過

・第1回研究会(R4.06.08)

本研究プロジェクトの概要、メンバーの自己紹介、
研究プロジェクトの進め方、および今年度の計画について議論

・第2回研究会(R4.07.11)

話題提供「由布院の成り立ちについて」(米田先生)

・第3回研究会(R4.08.11)+大分県由布市視察(R4.08.11-12)

温泉入浴の疫学的/心理的な影響についての報告(武田先生)
由布市視察結果の共有(湯布院振興局、一般社団法人由布市まちづくり観光局)

・第4回研究会(R4.11.07)+兵庫県有馬温泉視察(R4.11.07-08)

兵庫県有馬温泉視察結果の共有(有馬温泉観光総合案内所、神戸市役所経済観光局)

・第5回研究会(R5.02.13)+熊本県阿蘇郡視察(R5.02.13-14)

熊本県阿蘇郡視察結果の共有(小国町役場、黒川温泉観光旅館組合)
内部報告会に向けて資料の構成、報告内容について共有
次年度以降の研究プロジェクトの進め方を議論

(3) プロジェクトメンバー

PL 馬奈木 俊介 (IATSS 会員/九州大学大学院工学研究院都市交通工学講座 教授)

一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 教授)

谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 教授)

土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

中村 寛樹 (東京大学社会科学研究所 准教授)

武田 美都里 (九州大学都市研究センター 特任助教)

米田 誠司 (國學院大學観光まちづくり学部 教授)

オブザーバー

宮川 武広 (国土交通省都市局まちづくり推進課 課長補佐)

荒金 恵太 (国土交通省国土交通政策研究所 主任研究官)

<2202A>

自動運転車と共生する社会 ―その基盤整備に向けた包括的提言―

(1) 研究目的と概要

自動運転車の社会実装が迫り、自動運転車に対する期待が高まる中、喫緊の課題を確認し、その解決を目指す。第一に、自動運転車の公道での利用を可能にした法制度を確認する。令和4年改正道交法は、レベル4の技術利用を許可する制度を導入した。これは国際的にも最先端と評価できる制度であり、令和5年4月の施行を前にして、同制度を正確に理解する。第二に、同改正法の射程を確認し、より広い場面でレベル4の実用化を目指す。そのために、第三として、自動運転車の利用に向けた先進的取り組みを確認し、今後の課題を抽出する。

令和4年度(1年目)の成果

- ・令和4年改正道交法の正確な理解を得た。
- ・運転者がいない特定自動運行と、運転者がいる車両の運転との関係性の把握。特に「運転者がいない走行」、つまり遠隔自動運転を巡る国際的議論の必要性を理解した。
- ・自動運転車の試験的運用、計画の把握。実地調査(北海道上士幌)、先進的取り組み状況(大阪市、北海道庁)のヒアリングにより、地域の特性に合わせたレベル4の具体化を進める際の課題を確認した。
- ・ディレンマ状況への対処法の議論により、特定自動運行が許可される ODD 内での発生確率は低い(ODD 許可条件が厳格。低速での走行が想定されているため)ものの、自治体や自動運転車の開発者は、ディレンマ状況への対処法を切望していることを確認した。
- ・緊急避難や、ガイドラインによる責任免除の提案が、説得力を欠くということを理解した。
- ・自動運転車の乗員の健康確保や被害者救助のため D-call net の利用を検討した。
- ・8月の国内シンポジウム、2月の国際シンポジウムでの問題意識共有を行った。

令和5年度に向けては以下の内容を推進する。

- ・遠隔運転の許容性、事故時の責任分担、地方自治体の施策への協力、特定自動運行車両と D-call net の連携、ディレンマ状況の解決策についての議論を深める。
- ・研究成果の社会還元及び公表は、国内シンポジウム(市民ダイアログを兼ねる)と国際シンポジウム、各国の立法当局及び研究者との継続的交流を通じて行う。

(2) 研究経過

第1回研究会(R4.04.22)

- ・今年度のプロジェクト概要、および活動方針の説明
- ・ワーキンググループに分かれての意見交換

第2回研究会(R4.08.01)

- ・法学ワーキンググループでの議論状況の共有
- ・国内外での自動運転車の実験状況の共有

第3回研究会(R4.09.30)

- ・8/20 国内シンポジウムのテーマに係る議論の継続

第4回研究会(R4.11.04)

- ・「改正_ドイツ道交法」「改正_日本道交法」について資料と話題を共有し、これまでの議論を継続

第5回研究会(R4.12.20)

- ・改正道交法の検討の継続

第6回研究会(R5.01.30)

- ・政府の施策の動向把握

第7回研究会(R5.02.06)

- ・D-Call Net の実情把握

第8回研究会(R5.03.02)

- ・内部報告会に向けた事前整合

(3) その他の活動

- ・国内シンポジウムの開催(R4.08.20)

開催形態:オンライン

テーマ:IATSS 自動運転車の社会的実装を目指して -道交法改正後の状況を踏まえた意見交換会 -

- ・国際シンポジウムの開催(R5.02.24)

開催形態:オンライン

テーマ:自動運転レベル4の実用化を巡る問題 -国際的視点から考える-

(4) プロジェクトメンバー

PL 今井 猛嘉 (IATSS 会員/法政大学法科大学院 教授)

会員

岩貞 るみこ (IATSS 会員/モーター・ジャーナリスト)

大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)

上條 俊介 (IATSS 会員/東京大学情報学 准教授)

木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授)

篠原 一光 (IATSS 会員/大阪大学大学院人間科学研究科 教授)

杉本 洋一 (IATSS 会員/株式会社本田技術研究所 エグゼクティブチーフエンジニア)

菅沼 直樹 (IATSS 会員/金沢大学新学術創成研究機構未来社会創造コア 教授)

中尾田 隆 (IATSS 会員/池袋南法律事務所 弁護士)

中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学 教授)

平岡 敏洋 (IATSS 会員/一般財団法人日本自動車研究所 新モビリティ研究部 研究員)

森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学 大学院工学研究科 都市系専攻 准教授)

特別研究員

- 宮崙 拓郎 (IATSS 理事/救急へり病院ネットワーク 理事)
鶴賀 孝廣 (IATSS 顧問)
松村 良之 (IATSS 顧問/北海道大学 名誉教授)
矢野 雅文 (IATSS 顧問/東北工業大学 客員研究員)
池田 大介 (東雲総合法律事務所)
大澤 彩 (法政大学 法学部 法律学科 教授)
小川 貴裕 (アディーレ法律事務所)
阪井 光平 (セラス法律事務所)
佐藤 秀貴 (東京臨海病院 救急科 部長特別研究員)
佐藤 昌之 (ITS Japan)
清水 和夫 (モーター・ジャーナリスト)
鈴木 陽子 (株式会社テクノバ)
膳場 百合子 (早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 教授)
高山 寧 (野村不動産ホールディングス 取締役 (監査等委員))
長谷川 晃 (北海道大学 大学院法学研究科 名誉教授)
波多野 邦道 (株式会社本田技術研究所 エグゼクティブチーフエンジニア)
宮木 由貴子 ((株)第一生命経済研究所ライフデザイン研究部長 兼 主席研究員)
結城 雅樹 (北海道大学 大学院文化研究員・大学院文学院・文学部 教授)
若月 将史 (京橋法律事務所)
Caroline Lebereton (法政大学 大学院法学研究科 及び 通信教育法学部 兼任講師)

オブザーバー

- 石附 弘 (IATSS 評議員/日本市民安全学会 会長)
伊藤 健一 (警察庁 交通局 交通企画課 自動運転戦略室 室長)
白鳥 智彦 (法務省 刑事局参事官)
鈴木 僚 (北海道経済部 産業振興局 産業振興課 成長産業係 主査 (IT))
高井 雅木 (国土交通省 近畿地方整備局 営繕部 計画課長 PL)
多田 義隆 (国土交通省 自動車局 自動運転戦略室 室長)
東山 太郎 (法務総合研究所 総務企画部 部長)
平野 賢 (法務省 刑事局付)
保坂 和人 (法務省 大臣官房審議官)
三角 隆太郎 (警察庁 交通局 交通企画課 自動運転戦略室 課長補佐)

<2203C>

ウォークアブル・シティ評価手法の開発

(1) 研究目的と概要

日本では急激な人口減少、超高齢化を迎え、都市のコンパクト化が進められている。しかし、ただ単に都市をコンパクトにすれば良いわけではなく、都市の活力を維持し魅力を向上させるために「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市再生が令和元年に国土交通省に設置された懇談会で提唱され、令和 2 年度から「まちなかウォークアブル推進プログラム」がスタートすることになった。既に、全国で 346(令和 5 年 1 月末現在)の都市がウォークアブル推進都市として名乗りを上げている。本研究はウォークアブルな都市(ウォークアブル・シティ)を横断的に評価する手法を明らかにすることを目的とする。欧米の先進事例を参考にしつつ、日本の都市に適した評価手法を目指す。

令和 4 年度(3 年目)の成果

- ・ウォークアブルを評価する視点は、社会課題に応じたアウトカムとして何をを目指すかによって、変わりうるし変えるべきである
 - ・ウォークアビリティ指標は、社会・経済・環境の持続可能性、健康、都市の 3 つの視点から整理することができ、また空間スケールにも依存する
 - ・ウォークアビリティ指標は、そのアプローチから客観的、主観的な方法に区分することができ、さらに新たな手法が提案されてきている
 - ・本研究では、持続可能性、健康、都市の 3 つの視点、異なる空間スケール、客観的、主観的方法のそれぞれにおいて事例研究を行い、加えて新たな手法についても提案した
 - ・国土交通省は街区レベルでの主観的手法により評価を進めつつあるが、本研究で取り組んだ客観的手法と新たな手法を組み合わせた評価方法を検討していくことになっている
- 今後の展開としては、これまでの研究成果を出版物として発表するとともに国土交通省に協力して社会実装を目指す

(2) 研究経過

- ・第 1 回研究会(R4.06.02)
今年度の研究プロジェクトの計画の共有、国土交通省の取り組みについての報告、ウィーンウォークアブルの進捗報告
- ・欧州視察(R4.08.01-08.08)
オーストリアのウィーン市のスーパーブロック社会実験の視察および意見交換、フランスのパリ市内の歩行環境整備、自転車環境整備事例の視察および意見交換、スペインのバルセロナのスーパーブロックの試行エリアの視察および意見交換
- ・北米視察(R4.09.05-09.11)
ボストンのパークシステム(エメラルドネックレス)、Rose Kennedy Greenway 視察および意見交換、ニューヨークのハイライン、セントラルパークの視察および意見交換
- ・第 2 回研究会(R4.09.13)
欧州視察の情報共有

- ・第 3 回研究会(R4.10.26)
北米視察の情報共有、
「日本でのウォークアブルな街路整備に資する論点の体系的整理に関する研究」の進捗報告
- ・第 4 回研究会(R4.12.27)
国道交通省の「まちなかの居心地の良さを測る指標に関する取り組み」の進捗報告、
ウィーン市でのウォークアブルの社会実験についての詳細の説明
- ・第 5 回研究会(R5.02.09)
本研究プロジェクトの 3 年間のまとめ、および内部報告会に向けた議論
次年度以降のプロジェクトについての議論
- 【ウィーン Working Group】(R4.11.10, R5.02.15, R5.03.16)
ウィーンウォークアブルの研究の目的、研究モデル、実験の手法について議論、
実験結果の分析手法、および次年度以降の論文、報告書へのまとめ方を議論

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

PL 一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 教授)

岩貞 るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)

紀伊 雅敦 (IATSS 会員/香川大学創造工学部 教授)

土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)

松橋 啓介 (IATSS 会員/国立環境研究所社会環境システム研究センター 室長)

馬奈木 俊介 (IATSS 会員/九州大学大学院工学研究院都市・交通工学講座 教授)

村上 暁信 (IATSS 会員/筑波大学システム情報系 教授)

森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)

特別研究員

岩崎 寛 (千葉大学大学院園芸学研究科緑地環境学コース環境健康学領域 准教授)

長田 哲平 (宇都宮大学地域デザイン科学部 准教授)

小嶋 文 (埼玉大学大学院理工学研究科 准教授)

柴山 多佳児 (ウィーン工科大学 Senior Scientist)

田島 夏与 (立教大学経済学部経済政策学科 教授)

鳥海 梓 (東京大学生産技術研究所人間・社会系部門 助教)

伊藤 佑亮 (早稲田大学大学院建設工学専攻 修士 2 年)

オブザーバー

宮川 武広 (国土交通省都市局まちづくり推進課 課長補佐)

乃口 智栄 (国土交通省都市局まちづくり推進課 企画専門官)

小宮 亜也加 (国土交通省都市局まちづくり推進課 係長)

<2204B>

アジア地域における健康起因事故防止に関する国際比較研究

(1) 研究目的と概要

近年、運転者の健康状態が交通事故の主要な危険因子であることが報告されており、わが国でも健康起因事故防止は交通事故対策の重要な課題と認識されている。しかし、特にアジア地域において健康起因事故対策は未だ十分に行われていない。

そこで本プロジェクトでは、令和2年度の社会貢献プロジェクトで作成した普及啓発動画について視聴後アンケートを実施し、普及啓発効果を検証することを目的とした。令和4年度は国内において各動画の普及啓発を行うとともに、タイにおいて国際シンポジウムを開催し、普及啓発動画の視聴後アンケートを実施するとともに、タイの運輸業における健康管理の実態に関してヒアリング調査を実施した。

国内では、警察庁を通じて全国の都道府県警に動画を周知し、各警察署や運転免許センターで活用した。また、関東交通共催協同組合のHP等でも紹介された。令和5年1月にバンコクのチュラロンコン大学で開催した国際シンポジウムでは、41名が参加した。動画視聴後のアンケートについて、「睡眠時無呼吸症候群運転絵巻」は38名、「緑内障運転絵巻」は34名から回答を得た。各動画について、9割以上の方から、動画の内容について「わかりやすかった」、「病気が原因となる交通事故防止の取り組みとして有用だと思う」という回答を得た。この結果から、タイにおいても本普及啓発動画が健康起因事故防止に有用である可能性が示された。

次年度は、中国で同様の調査とシンポジウムを実施し、健康起因事故に関する意識の違い等について国際比較を行うとともに、職業運転者を対象とした日本型の睡眠時無呼吸症候群の検診モデルやクロックチャートによる視野障害のスクリーニングについて、アジア地域における実施可能性を検討する。

(2) 研究経過

第1回研究会(R4.04.28)

- ・今年度のプロジェクト概要の説明
- ・成果物の内容について

第2回研究会(R4.11.01)

- ・タイ出張報告
- ・タイでのシンポジウム開催についての議論
- ・国内アンケートについて

第3回研究会(R4.12.12)

- ・タイでのシンポジウム開催についての議論
- ・国内アンケートについて

第4回研究会(R5.02.15)

- ・タイでのシンポジウム開催についての議論
- ・国内アンケートについて
- ・内報に向けて
- ・次年度プロジェクト提案について

(3) その他の活動

- ・令和5年1月9日(月)10:00～12:00、タイのチュラロンコン大学で国際シンポジウムを開催した。
参加者は、医療従事者・国および地方公共団体関係者他41名。
- ・令和5年1月9日(月)14:00～15:00、タイ創和サービス株式会社に、タイの職業運転者における、
運行管理や健康管理に関する法制度や事業場における実態についてヒアリングを実施。

(4) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働安全衛生総合研究所過労死等防止調査研究センター センター長)
浅野 水辺 (IATSS 会員/愛媛大学大学院医学系研究科法医学専攻 教授)
大口 敬 (IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
太田 和博 (IATSS 会員/専修大学商学部 教授)
岡村 和子 (IATSS 会員/科学警察研究所 研究室長)
谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部公衆衛生学教室 主任教授)
土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)

特別研究員

- 国松 志保 (医療法人社団済安堂 西葛西・井上眼科病院 副院長)
佐藤 准子 (順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座 助教)
白濱 龍太郎 (順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座 非常勤講師)
奥山 祐輔 (黒井産業(株)黒井交通教育センター マネージャー)
友岡 清秀 (順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座 助教)
ミヨー ニエン アング (順天堂大学国際教養学部 特任教授)
和田 裕雄 (順天堂大学医学部 教授)
朱 沁曄 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
謝敷 裕美 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 修士課程)
植田 結人 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)
Naricha Chirakalwasan (Chulalongkorn University)
福島 史人 (埼玉県済生会加須病院救急医学科 副科長)
金会庆 (安徽三联事故予防研究所 所長)

研究協力者

- 崎山 紀子 (順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座 非常勤助教)
大貫 慧介 (順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程)

オブザーバー

- 上田 享 (国土交通省自動車局安全政策課 専門官)
河本 直紀 (警察庁交通局交通企画課法令係 係長)
田中 陽 (警察庁交通局運転免許課 課長補佐)
汐見 友宏 (警察庁交通局運転免許課講習係 係長)

<2205B>

中山間エリアの高校通学における交通課題の解決と教育的効果の測定

(1) 研究目的と概要

大阪府立豊中高等学校・能勢分校は、中山間部に位置する学校であるが、文部科学省の「地域協働推進校(グローバル型)事業特例校」に指定されるなど、グローバル人材育成を目指しユニークな教育活動に取り組んでおり、地域での進学希望者も多い。しかし、近年では進学希望者が通学を理由に入学を断念するなど、「通学課題」が挙げられ、入学者の減少・定員割れが続いている。現在、徒歩や路線バス、自動車での送迎といった通学手段があり、それ以外は自転車が最終的な手段となっているが、自転車通学においては、安全面で中山間部特有の課題を抱えている。

本プロジェクトは、高校生に電動アシスト付き自転車(e-Bike)という新たな交通手段を提供することで、交通のあり方の学習支援により課題解決力の向上を目指すとともに、地域課題全体の解決への展開を図るものである。最終的な成果として、高校生たち自身による「交通安全に関する提言」をまとめ、能勢町役場に提出することで、今後、能勢地区における交通安全施策の改善が行われることを期待している。

今年度は、主に 3 つの研究を実施した。「交通工学的アプローチ」の研究では、交通安全ワークショップにおいて、自らの運転行動を可視化したことで、交通ルールの順守率が多少増加し、リスクのある場面における回避挙動の頻度が上昇した。また、「都市計画・交通計画的アプローチ」の研究では、通学路の危険個所を認識すると共に、自転車の視点・自動車の視点・まちづくりの視点といった多様な視点からの問題発見および提案がなされた。さらに「環境経済学的アプローチ」として、e-Bike の使用による、生徒やその家族の拘束時間の緩和効果や、温室効果ガスの排出増減を計測し、可視化することを試みた。これらのワークショップ通じ、高校生たちが指摘した通学路の課題を能勢役場へ提言し、実際に通学路の課題に対する改善が実施された。

(2) 研究経過

- ・対象生徒説明会(R4.05.11)
 - 令和 3 年度活動の振り返り
 - 令和 4 年度活動計画の説明
- ・第 1 回研究会(R4.05.19)
 - 本年度の活動計画
 - 交通行動調査・交通インフラ調査の説明
 - 大阪府立豊中高等学校能勢分校の e-Bike 通学状況報告
- ・自転車安全運転研修(R4.07.12)
- ・第 1 回交通インフラワークショップ(R4.07.14)
- ・第 1 回交通安全ワークショップ(R4.08.31)
- ・第 2 回研究会(R4.11.08)
 - 自転車安全運転研修の報告
 - 交通インフラワークショップの報告
 - 交通安全ワークショップの報告
- ・第 2 回交通インフラワークショップ(R4.12.12)

- ・第2回交通安全ワークショップ(R5.01.23)
- ・第3回研究会(R5.02.16)
- 今年度の研究成果の報告
- 内部報告会・報告資料の内容整合
- プロジェクトの今後の方向性について

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 北村 友人 (東京大学大学院教育学研究科 教授)
- 大森 宣暁 (宇都宮大学地域デザイン科学部 教授)
- 土井 健司 (大阪大学大学院工学研究科 教授)
- 馬奈木 俊介 (九州大学大学院工学研究院都市交通工学講座 教授)
- 吉田 長裕 (大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)
- 特別研究員
- 猪井 博登 (富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科 准教授)
- 奥山 祐輔 (黒井産業(株) 黒井交通教育センター本部マネージャー)
- 神田 直弥 (東北公益文科大学 学長)
- 柴山 多佳児 (ウィーン工科大学交通研究所 研究員)
- 中井 宏 (大阪大学大学院人間科学研究科 准教授)
- 山口 直範 (大阪国際大学人間科学部人間健康科学科 教授)
- 山崎 瑛莉 (上智大学グローバル教育センター 講師)
- 岸上 祐子 (九州大学大学院工学研究院 特任助教)
- 葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科 助教)
- 内田 千秋 (大阪府立豊中高等学校能勢分校 アドバイザー)
- 矢立 智也 (大阪府豊能郡能勢町役場 総務部総務課)
- 榎原 友樹 (能勢・豊能まちづくり 代表取締役)
- 永井 克治 (能勢・豊野まちづくり 地域サービス開発部)
- 周 純甄 (大阪大学大学院工学研究科 博士課程)
- 大塚 優作 (大阪大学大学院工学研究科 修士課程)
- オブザーバー
- 菅原 亮 (大阪府立豊中高等学校能勢分校 代表 准校長)
- 上西 将司 (大阪府立豊中高等学校能勢分校 地域魅力化クラブ顧問教諭)
- 熊手 俊行 (大阪府豊能郡能勢町役場 総務部総務課 課長)

<2206A>

《行政・団体連携》

人工知能を用いた効率的な事故防止対策に関する研究

(1) 研究目的と概要

これまで交通取締りは長年の経験をもとに、現場で効率的な取り締まり計画をたてていた。平成 23 年からは交通取締り計画が PDCA に組み込まれ、事故実態や分析結果を反映した計画立案がなれているが、都道府県単位でシステムが異なり、担当者の技術力に依存することが大きい。第 11 次交通安全基本計画では、地理的情報等に基づき交通事故分析の高度化を図り、交通事故抑止に資する交通指導取締りを推進することを重点施策としている。また、令和 3 年にデジタル庁が創設され、行政のデジタル化の積極的な推進が急務となっており、交通安全分野においても標準化などの対応が必要となっている。

国際交通安全学会では平成 26 年から「交通取締りハンドブック」を発行し、交通取締りに関わる関係者への継続的な情報提供を実施してきた。交通行政の現場からもビックデータを活用した効率化が求められている。また、人工知能を用いた交通事故リスクの予測については国内外で研究事例はあるが、それを用いて実際に取締り計画を立案している地域は見られない。特に実施した取締りの効果を明示的にモデルに組み込み、汎用的なモデルを開発した事例はない。

本研究では、このような背景を受け、急速に活用が進む人工知能 AI を活用し、効率的な事故抑止対策箇所を提案するモデルを開発することを目的とする。本研究で提案するデータを用いた事故防止対策箇所の最適な実施場所の予測ができれば、現場の経験とあわせてより効率的な交通事故抑止が可能となる。さらに、効果的な取締り計画の作成の一助となるように汎用的なアプリケーションを開発することで、多様な地域での展開が可能となると共に、対策効果をビックデータとして経年的に蓄積することで、地域に根差した対策案の検討ができる。

(2) 研究経過

【全体会議】

・第 1 回研究会(R4.05.11)

本研究の趣旨説明

「交通指導取締り活動支援システム」の概要・課題・スケジュールの共有

「AI を用いた効率的な事故防止対策に関する研究」についての概要共有

・第 2 回研究会(R4.10.11)

開発システムの要件定義について議論

システムイメージの確認

AI を用いた事故防止対策モデルの進捗説明・議論

・第 3 回研究会(R5.01.24)

システム開発状況の共有・議論

法執行機関向けセミナーへの出展についての情報共有

内報へ向けた研究のまとめ方について議論

【システム開発ワーキンググループ】

- ・第1回 (R4.05.17)
システム仕様書について議論
- ・第2回 (R4.07.04)
データ確認後のシステム開発に関する意見交換
早稲田大学における研究開発状況について情報共有
- ・第3回 (R4.08.29)
取り締まりシステムのイメージ、仕様の開発状況について情報共有
早稲田大学における研究開発状況について情報共有
- ・第4回 (R4.12.16)
取り締まりシステムのイメージ、仕様の開発状況について情報共有
早稲田大学における開発状況について情報共有

(3) プロジェクトメンバー

- PL 森本 章倫 (IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
岩貞 るみこ (IATSS 会員/モータージャーナリスト)
加藤 一誠 (IATSS 会員/慶應義塾大学商学部 教授)
中川 由賀 (IATSS 会員/中京大学法学部 教授)
中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
浜岡 秀勝 (IATSS 会員/秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻
土木環境工学コース 教授)

特別研究員

- 岡本 努 (警察庁交通局交通指導課 課長<~R4.08>)
杉 俊弘 (警察庁交通局交通指導課 課長<R4.09~>)
福谷 徳啓 (警視庁交通総務課 交通企画管理官)
神谷 大介 (琉球大学工学部工学科社会基盤デザインコース 准教授)
眞中 今日子 (流通経済大学経済学部 准教授)
寺奥 淳 (建設技術研究所中部支社道路・交通部)
下原 祥平 (建設技術研究所東京本社道路・交通部)
山脇 正嗣 (国土文化研究所 インテリジェンスサービスプラットフォーム)
木村 拓憲 (国土文化研究所 インテリジェンスサービスプラットフォーム)
杉浦 淳徳 (株式会社インフォマティクス営業部)
麻生 拓哉 (株式会社インフォマティクス営業部)
佐竹 絵美 (日本電気株式会社 警察・警備ソリューション第二統括部)
小林 洗介 (日本電気株式会社 警察・警備ソリューション第二統括部)
成瀬 拓海 (早稲田大学大学院修士2年)
倉科 慧大 (早稲田大学大学院修士1年)

オブザーバー

- 石附 弘 (IATSS 評議員/日本市民安全学会 会長)
奥野 純平 (日本電気株式会社 警察・警備ソリューション第二統括部)
本田 詩音 (日本電気株式会社 警察・警備ソリューション第二統括部)
柳川 裕亮 (日本電気株式会社 警察・警備ソリューション第二統括部)

鈴木 忠英 (建設技術研究所中部支社道路・交通部)
星野 一輝 (建設技術研究所中部支社道路・交通部)
藤井 篤史 (建設技術研究所東京本社 交通システム部)
長谷川 紗弓 (建設技術研究所東京本社 交通システム部)
山上 辰典 (NEC ソリューションイノベータ株式会社)
片山 紘希 (NEC ソリューションイノベータ株式会社)
足立 浩基 (NEC ソリューションイノベータ株式会社)
塩入 健太 (日本電気株式会社)
上地 智裕 (日本電気株式会社)
上山 晃平 (NEC ソリューションイノベータ株式会社)
菊池 智哉 (日本電気株式会社)
小泉 智久 (NEC ソリューションイノベータ株式会社社長)
稲垣 智宏 (NEC ソリューションイノベータ株式会社)
西島 梨恵 (NEC ソリューションイノベータ株式会社)
中西 健一郎 (国土交通省 道路局 道路交通管理課)
小川 裕樹 (国土交通省 道路局 道路交通安全対策室)

<2207A>

カンボジアにおける交通安全行動変容プログラムの開発と実施

(1) 研究背景・目的と概要

アジアの途上国では、経済成長を実現する中で、急速なモータリゼーションと高規格道路整備が進み、大都市の郊外部や地方部においては、走行速度の上昇などに起因した交通事故の増加が課題となっている。カンボジアでも国道 5 号線の整備・高規格化に伴い同様の課題が生じ、これに対し政府アクションプランに交通安全教育や行動変容プログラムが位置づけられ、JICA の交通安全技術協力プロジェクトが開始された。

本プロジェクトでは、IATSS フォーラム・カンボジア同窓会 (CIAA) および JICA と連携し、行動変容プログラムチームを立ち上げる。さらに、現地の実態および行動変容理論の最新動向の把握に基づき、学際的な視点から新たな行動変容プログラムの概念モデルとその実装に向けた調査方法 (児童・学童対象) を検討し、チームと協働のもとプログラムを実施するものである。

本年度 (1 年目) は、下記活動を実施し、次年度のプログラム実施に向けた準備を完了した。

- ・CIAA, JICA, 現地の教育学専門家・行政などと行動変容プログラムチームを組織した。
- ・現地の小・中学校・高校へのヒアリング・ビデオ調査により交通安全教育および通学実態を把握した。
- ・最新の行動修正モデルを基に行動変容仮説を構築し、プログラム実施前の行動把握のための生徒に向けたパイロット調査を実施した。

(2) 研究経過

・第 1 回研究会(R04.04.14)

プロジェクト概要、年間計画の共有
行動変容モデルについての議論

・JICA との情報共有(R04.05.19)

JICA プロジェクト共有
今後の進め方についての議論

・第 2 回研究会(R04.06.20)

8 月の現地出張についての打ち合わせ

・JICA との情報共有(R04.07.05)

8 月の現地出張についての打ち合わせ

・カンボジア出張(R04.08.07-15)

バタンバン州教育省訪問、及び交通行動変容プログラムの対象となるエリアの小学校、中学校、高校の通学状況を視察し、交通安全教育の実施状況について教員へのヒアリングを行った。プノンペンでは、フォーラム同窓会 (CIAA)、王立プノンペン大学 (RUPP)、公共事業運輸省、JICA との情報共有を行った。

・王立プノンペン大学メンバーとの顔合わせ(R04.08.17)

・8 月出張情報共有(R04.09.02)

・第 3 回研究会(R04.10.13)

プログラム理論構築についての議論
質問紙調査の設計についての議論

- JICA との情報共有(R04.10.21)
双方の進捗状況の共有
次回の現地調査についての打ち合わせ
- 第 4 回研究会(R04.12.08)
パイロット質問紙調査内容の検討
- JICA 情報共有(R04.12.20)
質問紙調査に関する意見交換
- CIAA との質問紙内容検討(R05.01.10)
- JICA との打ち合わせ(R05.01.20)
3 月現地調査に関する打ち合わせ
- CIAA との質問紙調査実施に関する打ち合わせ(R05.02.10)
- 電子アンケート調査実施会社との打ち合わせ(R05.02.14)
- カンボジア出張(R05.03.09-15)
コンポンチュナン州の 2 つの中学校において、二輪車利用者、自転車利用者に対する交通安全意識・行動に関するパイロット質問紙調査を、CIAA の協力のもとで実施した。
プノンペンでは、公共事業運輸省及び教育省、現地専門家チーム、JICA との会合を開催し、今回のパイロット調査及び来年度計画についての情報共有と意見交換を行った。

(3) プロジェクトメンバー

PL 土井 健司 (IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科 教授)

会員

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学 准教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)

特別研究員

山口 直範 (大阪国際大学人間科学部 教授)

葉 健人 (大阪大学大学院工学研究科 助教)

Dr. Or Vitou (IATSS フォーラム・カンボジア同窓会 (CIAA) 会長)

Ms. Heang Omuoy (CIAA 副会長)

Ms. Prom Sophea (CIAA 副会長)

Ms. Nuon Kossoma (IATSS フォーラム・カンボジア事務局 / CIAA メンバー)

Mr. Chhaly Samsokrith (CIAA メンバー)

<2208C>

電動モビリティ混在下の安全快適な道路環境整備に関する研究

(1) 研究目的と概要

欧米諸国では電動キックボードをはじめとする小型の電動モビリティの導入が進み、日本でも移動支援、ラストワンマイルへの活用など普及展開が期待されている。本研究調査では、利用者心理や挙動、安全性評価、法制度など多面的な分析を進めることで、これらの電動モビリティと既存交通手段の混在下における課題を整理し、安全快適な道路整備に関する考察を行う。

本研究調査では6つのワーキンググループ(WG)で活動を行った。WG1では国際比較アンケートを実施し、電動モビリティの普及状況によって、意識の構造が異なる可能性があり、特に普及過渡期では、法制度等の整備や運用サービス向上が社会的受容を高めることを示した。WG2では法制度面の調査を通じて、自動車免許を持たない利用者など、安全教育の徹底の課題、駐輪に対する検討の必要性を示した。WG3、WG5では、利用者挙動に基づいた電動キックボードの安全性、不安感調査を実施し、歩道、車道での混在状況下の留意事項や道路構造に関する課題を整理した。WG4では自治体に対するアンケートを実施し、地域課題に応じて求められる電動モビリティの種類が異なることを示した。WG6では国際ワークショップ開催を通じて、欧州の先進取り組みに基づき、わが国での小型電動モビリティ展開に向けた検討の着眼点を示した。

(2) 研究経過

- ・第1回 WG3(実態調査)打合せ(R4.02.08)

- ・第1回研究会(R4.05.18)

 - 本年度のプロジェクトの進め方

 - WG1、WG4の進捗報告

- ・WG4(展開可能性)打合せ(R4.06.23)

- ・WG5(混在化実験)打合せ(R4.06.27)

- ・第1回 WG2(制度)打合せ(R4.07.11)

- ・WG1(受容性評価)メンバー打合せ(R4.07.26)

- ・第2回研究会(R4.08.03)

 - WG5, WG4, WG3, WG2, WG1の進捗報告と質疑

- ・第2回 WG3(実態調査)打合せ(R4.09.07)

- ・第3回研究会(R4.10.12)

 - WG6, WG1, WG2, WG3, WG4, WG5の進捗報告と質疑

- ・第3回 WG3(実態調査)打合せ(R4.12.12)

- ・第4回研究会(R5.01.11)

 - WG4, WG2, WG3, WG5, WG1, WG6の進捗報告と質疑

 - 取りまとめに向けた意見交換

- ・第2回 WG2(制度)打合せ(R5.01.16)

- ・第5回研究会(R5.02.16)

 - WG1, WG3, WG5, WG4, WG2, WG6の進捗報告

 - 内部報告会打合せ

 - WCTR(World Conference on Transport Research)国際会議セッション企画について共有化

(3) その他の活動

- WG6(国際ワークショップ) 電動モビリティに関する国際ワークショップをウィーン工科大学で開催(R5.02.28)
- WG1 の活動で、電動モビリティの受容性に関するアンケート実施(日本、イギリス、オーストリア、カタール)

(4) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学 社会工学科 准教授)
小川 和久 (IATSS 会員/東北工業大学 教職課程センター 教授)
小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)
関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学 理工学部 教授)

特別研究員

- 猪井 博登 (富山大学大学院 理工学研究部 准教授)
井料 美帆 (名古屋大学大学院 環境学研究科 准教授)
太田 勝敏 (IATSS 顧問/東京大学 名誉教授)
柴山 多佳児 (ウィーン科学大学交通研究所 研究員)
鈴木 一史 (群馬工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授)
鈴木 立人 (ロンドン大学 研究技官)
高田 実宗 (駒澤大学法学部 准教授)
立松 秀樹 (株オリエンタルコンサルタンツ 中部支社総合計画部 副部長)
吉岡 慶祐 (日本大学 理工学部 助教)
Alhajyaseen Wael (カタール大学 准教授) 研究協力者

オブザーバー

- 宮城 卓志 (警察庁交通局交通企画課 課長補佐)
杉浦 史緒 (警察庁交通局交通企画課 係長)
鶴賀 孝廣 (IATSS 顧問)

研究協力者

- 伊藤 大貴 (名古屋工業大学大学院 博士後期課程)
日比野 秀俊 (名古屋大学大学院 博士前期課程)

<2220 社会貢献>

データベース整備に基づいた日本のラウンドアバウトの実態と事例情報の発信

(1) 研究目的と概要

過去2箇年に亘るIATSS研究調査プロジェクトでは、全国140箇所に及ぶ日本のラウンドアバウト(RAB)の100項目に関するデータベース(DB)とそれに基づく事例の体系的整理を行うことで、これらの導入経緯、合意形成、適用場面、構造、課題などについての特徴を明らかにしてきた。本プロジェクトは、これらの成果に基づきセミナー開催やウェブサイト整備を行うことによって、日本のRABの実態に関する知見と数多くの興味深い事例について情報発信を行う。また、セミナーにおける意見交換を通じて、実務上のニーズや課題についての情報を収集し、DBの内容にフィードバックを行う。これらにより、道路交通安全と持続可能なまちづくりに寄与する望ましいRABの普及に向けて、IATSSから社会貢献を行うものである。

国内各地でRABの導入が増える一方で、その実態の全貌は不明確であった。そこで、RABのDBとそのWeb公開システムを開発することで、国内の導入事例の実態把握を可能にした。本システムにより幾何構造や好事例等の情報提供を行うことで、今後の各地におけるRAB計画・設計に際して、有力な支援ツールとしての活用が期待できる。

また、山形県長井市で開催されたラウンドアバウトセミナーin長井において、本プロジェクトの研究成果に関する講演とポスター発表を実施した。さらに、熊本市において「ラウンドアバウトを活かしたまちづくり、地域づくり」と題したセミナーを開催し、情報発信と意見交換を行った。これらより、RABの普及を加速させるためには、導入上の課題とその解決方法も含めて継続的に情報発信をしていくことの重要性が確認された。

(2) 研究経過

- ・第1回研究会(R4.07.19)
研究方針の確認・議論
- ・現地調査(R4.07.27～28)
ヒアリングおよびラウンドアバウト視察(平泉町、北上市、宮古市、大船渡市、石巻市、東松島市、亘理町、山元町)
- ・第2回研究会(R4.07.13)
各ワーキンググループ(WG1～4)の活動進捗報告と議論
(WG1:Web公開用システムの開発とDBの実装、WG2:DBの更新と機能改善、WG3:発信情報の更新・取りまとめ、WG4:セミナーの企画開催)
- ・ラウンドアバウトセミナー事前打合せおよび現地調査(R4.10.03～05)
会場および登壇者との打合せ(熊本市、福岡市、大分市)
ラウンドアバウト視察(御船町、宇城市、宇佐市)
- ・第3回研究会(R4.10.14)
各ワーキンググループの活動進捗報告と議論
- ・現地調査(R4.10.26)
ラウンドアバウト視察(酒田市、山形市)
- ・ラウンドアバウトサミットin長井(R4.10.27～28)
長井市民文化会館にて開催されたサミットに参加し、講演とポスター発表を実施(長井市)
ラウンドアバウト視察(長井市、村山市)

- ・ラウンドアバウトセミナー(R4.12.08)
熊本市国際交流会館にてセミナー開催。構成は、情報提供・基調講演・事例報告・パネルディスカッション(熊本市)
- ・現地調査(R4.12.09)
ラウンドアバウト視察および打合せ(合志市、南関町、八女市、うきは市、福岡市)
- ・第4回研究会(R4.12.26)
各ワーキンググループの活動進捗報告と議論
- ・第5回研究会(R5.02.13)
各ワーキンググループの活動報告と議論
内部報告会の発表方針の検討
とりまとめ方針の検討
- ・Web 公開システム運用開始(R5.03.31)

(3) プロジェクトメンバー(敬称略)

- PL 中村 英樹 (IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 教授)
鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)
永田 潤子 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院都市経営研究科 教授)
浜岡 秀勝 (IATSS 会員/秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻
土木環境工学コース 教授)

特別研究員

- 阿部 義典 (国際航業(株)インフラマネジメント事業部 道路計画担当部長)
池田 武司 (国土技術政策総合研究所道路交通研究部道路交通安全研究室 室長)
井料 美帆 (名古屋大学大学院環境学研究科 准教授)
上坂 克巳 ((公財)交通事故総合分析センター 常務理事)
奥城 洋 (セントラルコンサルタント(株)東北支社道路交通部 上級主任技師)
康 楠 (南京工業大学交通運輸工程学院 副教授)
神戸 信人 (株オリエンタルコンサルタンツ交通運輸事業部 副事業部長)
下川 澄雄 (日本大学理工学部 教授)
高瀬 達夫 (信州大学工学部 准教授)
高橋 健一 (三井共同建設コンサルタント(株)道路・橋梁事業部道路第一部 部長)
張 馨 (名古屋大学大学院環境学研究科 講師)
松村 みち子 (IATSS 顧問/タウンクリエイター 代表)
宮坂 好彦 (株建設技術研究所東北支社道路・交通部 次長)
宗広 一徳 ((国研)土木研究所寒地土木研究所寒地交通チーム 主任研究員)
吉岡 慶祐 (日本大学理工学部 助教)
米山 喜之 (株長大社会基盤事業本部第1道路部 担当部長)
渡部 数樹 (株オリエンタルコンサルタンツ関東支社交通政策部 次長)

オブザーバー

- 牧内 一司 (飯田市建設部地域計画課 課長)
近藤 益生 (飯田市建設部地域計画課 課長補佐)

<2230 海外調査>

未来の都市の交通及び安全に係る取り組みの調査研究

(1) 背景と目的

本プロジェクトは、今年度から新たに開始された。若手研究者が交通と安全に関する自らの興味関心に基づいて、様々な国や地域を訪れ、実際のフィールドを見て学んだり、現地の研究者や実務者と会って、知見を得たり共有したりする機会の実現を支援するものである。著名研究者との面会、研究会合等への参加、視察(交通安全、都市、環境などに関わる先進事例)など、広範囲の活動を対象とする。本プロジェクトでの経験が若手研究者の成長に資することを期待する。

(2) 概要と実績

今年度の基本的な考え方として、このプロジェクトの場を、異分野の研究者とのコミュニケーションの機会を持ち、また繋がりができるきっかけにしたいということから、これまで IATSS と関係性の深い 2 か国(英国、タイ)に調査対象国を絞り、若手研究者が同じような日程で現地に滞在してそれぞれの調査を行う傍ら、何回かお互いの調査状況を共有し、意見交換する機会を設けることとした。

今年度は以下の 6 テーマの調査活動を行った。

「イギリスにおける MaaS の研究及び導入事例に関する調査」(浅野)

「英国の Congestion Charge からみる未来の我が国の交通」(眞中)

「タイにおける交通安全対策の実態調査」(菊池)

「プローブ自転車をを用いた自動車の挙動と自転車の危険感の国際比較」(櫻井)

「TOD・スマートシティに着目した鉄道駅周辺整備状況の比較」(高山)

「人間中心視点でのバンコクの『ソイ(Soi)』および大阪の『通り』の機能の比較を通じたソイ活用方法の検討」。(葉)

(3) プロジェクトメンバー

PL 中村 文彦 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 特任教授)

会員

北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科 教授)

関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)

特別研究員

浅野 周平 (福井大学工学部 助教)

菊池 浩紀 (日本大学理工学部交通システム工学科 助手)

櫻井 淳 (文教大学情報学部情報システム学科 専任講師)

高山 宇宙 (大阪産業大学工学部都市創造工学科 専任講師)

眞中 今日子 (流通経済大学経済学部経済学科 准教授)

葉 健人 (大阪大学大学院 助教)

<2270 国際発表>

広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による安全性向上に関する研究(2102C)

(1) 研究目的と概要

「国際発表」プロジェクトは、以下の目的のため、前年度に実施した研究プロジェクトの中から、著しい成果の認められたプロジェクトに対し、国際的な会議等で発表する機会を設けるものである。
目的:

- ・IATSS の研究成果を国際的に広く周知すること
- ・期待される若手研究者に国際的な会議への参加の機会を提供すること
- ・IATSS の国際的な認知度を向上させること

今年度は、現地発表を前提とした国際発表の参加希望を募り、結果として下記 2 プロジェクトとなった。査読などの選考を経て発表に至ったのは①の 2 プロジェクトであった。②については参加予定のカンファレンスの開催が来年度に延期されたため、発表に至らなかった。

- ① 広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による安全性向上に関する研究(2102C)
- ② 東南アジアのモデル地区における情報共有型交通安全対策スキームの社会実装(1920)

(2) 実績

- ① 広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による安全性向上に関する研究(2102C)

・発表イベント

イベント名 : The 22nd International WALK21 Conference

開催地 : アイルランド(現地参加)

期間 : 令和 4 年 9 月 19~23 日

発表者 : 中井 智仁(大阪公立大学大学院工学研究科修士 2 回生)

・発表テーマと内容

タイトル : 「A Simulation Study on the Interaction between the Land-Access Function for Motor Vehicles and the Walkability for Pedestrians in Urban Streets」

発表形式 : ポスター発表

(3) プロジェクトリーダー及び発表者

1. 広場・歩行空間における群衆行動の観測とその制御による安全性向上に関する研究(2102C)

PL : 吉田 長裕 (大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

発表者 : 中井 智仁 (大阪公立大学大学院工学研究科修士 2 回生)

4. 令和4年度研究調査内部報告会(R5.03.04)

参加者 : 役員、評議員、顧問、会員および特別研究員 計 103 名
場所 : 経団連会館 経団連ホールでの対面及びオンラインでのハイブリッド開催
報告テーマ : 令和4年度実施の全プロジェクトテーマ

5. 研究調査部会企画委員会

1) IATSS サロン

・第1回 IATSS サロン(R4.07.06)

令和3年度個別研究成果報告

報告者 : 井料美帆(名古屋大学)、猪井博登(富山大学)、長田哲平(宇都宮大学)
柴山多佳児(2テーマ)(ウィーン工科大学)、高田実宗(駒澤大学)
鳥海 梓(東京大学)

出席者 : 評議員:1人、理事:1人、顧問:11人、会員:27人、協力会員:5人
計 45人

・第2回 IATSS サロン(R4.10.25)

拡大 IATSS サロンとしてハイブリッドにて開催

話題提供者 : 樋野公宏先生(東京大学)

講演タイトル:『歩行を促すまちづくり -横浜市民の歩数分析より-』

出席者 : 評議員:1人、理事:2人、顧問:4人、会員:15人、計 22人

・第3回 IATSS サロン(R5.01.10)

拡大 IATSS サロンとしてハイブリッドにて開催

話題提供者 : IATSS 会長 武内 和彦

講演タイトル:『カーボンニュートラルが導く豊かな交通社会』

出席者 : 評議員:2人、理事:3人、顧問:5人、会員:25人 計 36人

2) 委員会開催実績

第1回委員会(R4.04.05)

- ・令和4年度研究調査プロジェクト予算増額申請に関する審査
- ・ATRANS 令和4年度プロジェクトテーマに対する IATSS 側アドバイザー候補決定

第2回委員会(R4.04.27)

- ・昨年度活動振り返り
- ・今年度の活動方針合意
- ・国際発表審議
- ・IATSS サロン開催について
- ・年間スケジュール
- ・創 50 事業企画推進委員会からのお願い(大口委員)

・その他

- ①外部報告会参加者減少について
- ②社会貢献プロジェクトの在り方について

第3回委員会(R4.06.22)

- ・昨年度活動振り返り(前回の続き:ダイバーシティ促進の件)
- ・来年度プロジェクト基本スケジュール(詳細日程決め)IATSS サロンについて
- ・創50事業企画推進委員会への協力(創50記念事業とGIFTSへの協力)についての議論
- ・合宿について(創50周年事業関連:新規)の議論
- ・その他
 - ①研究調査プロジェクト提案数減少傾向について
 - ②社会貢献プロジェクトについて:継続
 - ③その他(外報の国際化にていて)

第4回委員会(PL会議)(R4.07.22)

- ・第2回、第3回IATSSサロンについて方法合意
- ・創50事業企画推進委員会への協力(GIFTSへの協力)について議論
- ・創50事業企画推進委員会への協力(合宿について)について議論
- ・研究調査プロジェクト提案数減少傾向につて(継続討議)対応策検討

第5回委員会(PL会議)(R4.10.06)

- ・研究調査プロジェクト提案書作成ガイダンスについて(情報共有)
- ・前回委員会(第4回委員会)レビュー(情報共有)
- ・第2回、第3回IATSSサロンについて
- ・令和5年度ATRANS研究調査カテゴリー“傘”の決定
- ・今年度内部報告会、外部報告会の基本方針決定
- ・Pre-合宿詳細について(12月11日-12日)
- ・研究調査プロジェクト提案数減少傾向について(継続討議)

第6回委員会(PL会議)(R5.03.06)

- ・外報発表プロジェクト選考、国際発表プロジェクト候補選考及び外報開催方法共有
- ・令和5年度研究調査プロジェクトの一次選考と仮予算決定
- ・ATRANS 令和4年度プロジェクトテーマに対するIATSS側アドバイザー候補承認

第7回委員会(PL会議)(R5.03.22)

- ・令和5年度研究調査プロジェクト2次審査
- ・国際発表プロジェクト決定

3)その他の活動

- ①研究調査プロジェクト提案活性化策として、研究調査プロジェクト提案書作成ガイダンス実施
 - ・第1回ガイダンス(R4.10.06) 6会員参加(説明者:吉田委員、一ノ瀬委員)
 - ・第2回ガイダンス(R4.11.16) 6会員参加(説明者:吉田委員、一ノ瀬委員)

②創立 50 周年に向けた Pre-合宿の実施 (R4.12.11～12)

・令和 6 年実施要諦の会員による合宿を企画するための合宿を実施。

参加者: 研究調査部会企画委員会委員、企画調整委員会委員、創 50 事業企画推進委員会委員から 16 名参加

③創 50 合宿ワーキング Gr.会合 (メンバーは同上)

第 1 回会合 (R5.01.23)

1. コアメンバーの定義
2. 今後のスケジュールの再確認
3. 創 40 のときの合宿成果とその後の振り返り
4. 専門分野との横断フォーム作成 --- 各分野の共通課題を整理

第 2 回会合 (R5.03.15)

1. 社会状況を見据えた技術革新へのダイレクション --- 関根委員講話
→ 課題抽出含め議論
2. 共通課題について議論

4) 企画委員会メンバー (敬称略)

委員長 谷川 武 (IATSS 会員/順天堂大学医学部 教授)

委員: 一ノ瀬 友博 (IATSS 会員/慶應義塾大学環境情報学部 教授)

太田 和博 (IATSS 会員/専修大学商学部 教授)

関根 太郎 (IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)

高橋 正也 (IATSS 会員/(独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所センター長)

堀口 良太 (IATSS 会員/㈱アイ・トランスポート・ラボ代表取締役)

吉田 長裕 (IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

II 広報出版事業

定期刊行物としては、IATSS Review(国際交通安全学会誌)Vol.47, No.1～3 および IATSS Research(英文論文集)Vol.46, Issue 1～4 を発行した。

1. 広報出版部会 学会誌編集委員会

1)IATSS Review の発行

Vol.47, No.1「特集/歩行と健康」(R4.06.30)

Vol.47, No.2「特集/持続可能な交通とエネルギー」(R4.10.31)

Vol.47, No.3「特集/免許制度、運転適性、および新モビリティの法改正」(R5.02.28)

2)投稿論文審査結果通知の改訂

投稿論文の審査において、「投稿論文として掲載不可。投稿ノートとして掲載可。要修正」と判定された場合、従前は「投稿ノートとしての掲載を了解いただける場合は、指定の期日までに、修正稿をお送りください。」と通知していたが、著者から一切返信がないケースがあるため、指定の期日までに連絡がなかった場合は、投稿ノートとしての掲載の意思がないものと判断します。」を追記し、審査の打ち切りを明確にすることとした(R5.01.17)。

3)著作権譲渡に関する検討

依頼原稿の内諾者 1 名・執筆者 1 名より、執筆規定および著作権規程に定める著作権譲渡への不同意の意向が示された。内諾者 1 名については、協議の結果、執筆辞退となった。執筆者 1 名については、別途取り扱いを定める同意書を作成する手続きを進めている。

4)委員会開催実績

第 1 回(第 345 回)(R4.05.17)

(1)Vol.47, No.1 進捗報告および確認

(2)Vol.47, No.2 進捗報告および確認(著作権譲渡に関する報告を含む)

(3)Vol.47, No.3 特集企画検討

(4)投稿 22-01 査読報告および審議

(5)共著者による同意書の提出について

(6)J-STAGE アクセス集計報告

第 2 回(第 346 回)(R4.07.05)

(1)Vol.47, No.1 発行報告

(2)Vol.47, No.2 原稿確認報告および審議

(3)Vol.47, No.3 特集企画検討

(4)Vol.48, No.1 以降の特集企画検討

(5)J-STAGE アクセス集計報告

第 3 回(第 347 回)(R4.09.02)

(1)Vol.47, No.2 進捗報告および確認

- (2)Vol.47, No.3 進捗報告および確認
- (3)投稿 22-01 進捗報告と審査打ち切りについて
- (4)Vol.48, No.1 特集企画検討
- (5)J-STAGE アクセス集計報告

第4回(第348回)(R4.11.09)

- (1)Vol.47, No.2 発行報告
- (2)Vol.47, No.3 原稿確認報告および審議
- (3)Vol.48, No.1 進捗報告及び確認
- (4)Vol.48, No.2 以降の特集企画検討
- (5)投稿原稿審査の打ち切りについて
- (6)J-STAGE アクセス集計報告

第5回(第349回)(R5.01.17)

- (1)創立50周年特集企画について
- (2)Vol.47, No.3 進捗報告および確認
- (3)Vol.48, No.1 進捗報告および確認
- (4)Vol.48, No.2 特集企画検討
- (5)Vol.48, No.3 特集企画検討
- (6)投稿原稿審査の打ち切りについて
- (7)J-STAGE アクセス集計報告

第6回(第350回)(R5.03.24)

- (1)Vol.47, No.3 発行報告
- (2)Vol.48, No.1 原稿確認/査読報告および審議(著作財産権譲渡に関する検討を含む)
- (3)Vol.48, No.2 進捗報告および確認
- (4)Vol.48, No.3 特集企画検討

5)学会誌編集委員会メンバー(敬称略)

- 委員長 平岡 敏洋 (IATSS 会員/(一財)日本自動車研究所 主席研究員)
- 木林 和彦 (IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授)
- 栗谷川 幸代 (IATSS 会員/日本大学生産工学部 教授)
- 小竹 元基 (IATSS 会員/東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授)
- 杉本 洋一 (IATSS 会員/(株)本田技術研究所先進技術研究所エグゼクティブチーフエンジニア)
- 鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)
- 中尾田 隆 (IATSS 会員/池袋南法律事務所 弁護士)
- 浜岡 秀勝 (IATSS 会員/秋田大学大学院理工学研究科システムデザイン工学専攻 土木環境工学コース 教授)
- 二村 真理子 (IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科経済学専攻 教授)

2. 広報出版部会 英文論文集編集委員会

1) 定期発行

下記の通り、4号を定期発行した。

- Vol.46, Issue 1(R4.04) “Road Safety and Traffic Culture from an International Perspective”特集
- Vol.46, Issue 2(R4.07)投稿論文のみ
- Vol.46, Issue 3(R4.10)投稿論文のみ
- Vol.46, Issue 4(R4.12)投稿論文のみ

2) 次年度の発行計画及び特集企画

- Vol.47, Issue 1(R5.04 予定)投稿論文のみ
- Vol.47, Issue 2(R5.07 予定) “Carbon Neutrality in transport sector”特集
- Vol.47, Issue 3(R5.10 予定)投稿論文のみ
- Vol.47, Issue 4(R5.12 予定)投稿論文のみ

3) ジャーナルパフォーマンスの確認

- 定期的に編集委員会にて投稿数、登載率、被引用率等のジャーナルパフォーマンスの推移を確認した。

4) Editor の増員

- 機械系分野の Editor 補充のため、新たに1名の新規 Editor(海外)が選定され、就任した。

5) 創立 50 周年記念特集号の企画推進

- 過去に IATSS が行ったプロジェクトの成果と、どのような社会的なインパクトをもたらしたかを振り返る特集の企画検討を行い、関連のあるプロジェクトリーダーに執筆依頼状を送付した。

6) 海外エディターの功労賞制度の検討

- 長年 IATSS に貢献のあった Advisory board のメンバーを創立 50 周年のイベントに招聘し表彰する案の検討を行った。

7) 委員会開催実績

第 1 回(187 回)編集委員会(R4.05.22)

- ジャーナルパフォーマンス報告
- 46-1 号 GRATS 特集発刊報告
- 47-2 号 カーボンニュートラル特集進捗報告
- IF(Impact Factor)取得に向けた現状分析と今後の取り組み
- Safety に関する縛りについて
- IATSS 創立 50 周年記念特集号の企画検討
- 海外エディターの功労賞制度について
- 投稿論文審査進捗報告

第2回(188回)編集委員会(R4.07.26)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・46-2号 発刊報告
- ・47-2号 カーボンニュートラル特集進捗報告
- ・リジェクト論文の転送サービスについて
- ・IF取得に向けた現状分析と今後の取り組み
- ・IATSS 創立50周年記念特集号の企画検討
- ・海外エディターの功労賞制度について
- ・投稿論文審査進捗報告

第3回(189回)編集委員会(R4.10.18)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・46-3号 発刊状況報告
- ・47-2号 カーボンニュートラル特集進捗報告
- ・IF取得に向けた現状分析と今後の取り組み
- ・IATSS 創立50周年記念特集号の企画検討
- ・海外エディターの功労賞制度について
- ・投稿論文審査進捗報告

第4回(190回)編集委員会(R5.01.16)

- ・ジャーナルパフォーマンス報告
- ・46-4号 発刊報告
- ・47-2号 カーボンニュートラル特集進捗報告
- ・IATSS 創立50周年記念特集号の企画検討
- ・海外エディターの任期更新および増員について
- ・IATSS Research のタイトルについて
- ・投稿論文審査進捗報告

第5回(191回)編集委員会(R5.02.14)

- ・審査スピード改善に向けて
- ・IATSS Research のタイトルについて

8)英文論文集編集委員会メンバー(敬称略)

委員長 上條 俊介	(IATSS 会員/東京大学情報学環 准教授)
木林 和彦	(IATSS 会員/東京女子医科大学医学部法医学講座 教授・講座主任)
小早川 悟	(IATSS 会員/日本大学理工学部交通システム工学科 教授)
土井 健司	(IATSS 会員/大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻 教授)
浅野 水辺	(IATSS 会員/愛媛大学大学院医学系研究科医学専攻 教授)
大森 宣暁	(IATSS 会員/宇都宮大学地域デザイン科学部 教授)
紀伊 雅敦	(IATSS 会員/香川大学工学部創造工学部 教授)
後藤 孝夫	(IATSS 会員/(中央大学経済学部 教授)
福山 敬	(IATSS 会員/鳥取大学工学部社会システム土木系学科 教授)

9) 英文論文集編集委員会メンバーを除く Editorial Board Members(敬称略)

●Associate Editors (32名)

- K. Bhalla (The University of Chicago, USA)
J. -M. Burkhardt (The French institute of science and technology for transport & University Paris Descartes, French)
S. Chalermpong (Chulalongkorn University, Thailand)
N. Christie (University College London, UK)
J. Chu (National Taiwan University, Taiwan)
Y.-S. Chung (National Chiao Tung University, Taiwan)
S. Das (Texas A&M Transportation Institute, USA)
V. M. Garikapati (National Renewable Energy Laboratory, USA)
Y. Gu (Ritsumeikan University, Japan)
A. M. Fillone (De La Salle University, the Philippines)
E. Javanmardi (The University of Tokyo, Japan)
M. Hagenzieker (Delft University of Technology, the Netherlands & the Norwegian Centre of Transport Research TØI, Norway)
S. Han (The Korea Transpot Institute, Republic of Korea)
B. Heydecker (University College London, UK)
S. Jaensirisak (Ubon Ratchathani University, Thailand)
I. M.-Babiano (University of Melbourne, Australia)
M. Matsuo (Kobe University, Japan)
E. Papadimitriou (Delft University of Technology, the Netherlands)
R. M. Pendyala (Arizona State University, USA)
S. S. Pulugurtha (The University of North Carolina at Charlotte, USA)
I. Radun (University of Helsinki, Finland & Stockholm University, Sweden)
N. Saunier (Polytechnique Montreal, Canada)
N.N. Sze (Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong, China)
R. Tay (RMIT University, Australia)
M. Tira (University of Brescia, Italy)
G. Tiwari (Indian Institute of Technology Delhi, India)
M. Vanderschuren (University of Cape Town, South Africa)
V. Vichiensan (Kasetsart University, Thailand)
S. Le Vine (State University of New York at New Paltz, USA & Imperial College London, UK)
C. Watling (University of Southern Queensland, Australia)
S. V. Wong (Malaysian Institute of Road Safety Research & University Putra Malaysia, Malaysia)
K.-F. Wu (National Chiao Tung University, Taiwan)

●Editorial Advisory Board Members (7名)

- R. Allsop (University College London, UK)
B.E. Horn (World Road Safety Institute, France)
P. Jones (University College London, UK)
E. Keskinen (University of Turku, Finland)
M.E.H. Lee-Gosselin (Université Laval, Canada)
G.M. Mackay (University of Birmingham, UK)
F. Wegman (Delft University of Technology, the Netherlands)

III 褒賞事業

今年度は、第 43 回国際交通安全学会賞の贈呈式を行うとともに、第 44 回国際交通安全学会賞として、業績部門 1 件、論文部門 3 件の授賞を決定した。

1. 第 43 回(令和 3 年度)国際交通安全学会賞贈呈式

令和 4 年 4 月 8 日(金) ハイブリッド(経団連会館+リモート)で開催した。

2. 第 44 回(令和 4 年度)国際交通安全学会賞

《業績部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、研究、施策の推進、普及、啓発、あるいは機器の開発、設備・施設の建設などに多大な業績をあげたものを対象に、過去 3 年以内に成果が顕著となった業績の中から選考される。

例年同様、公募による推薦と委員会メンバーの調査によって、候補業績の情報を収集し、今年度の候補業績 16 件について視察・ヒアリング調査及び審査を重ねた結果、1 件が選出された。

出典:第 44 回国際交通安全学会賞パンフレット

業績題目： 除雪の力で滑走路を守る ー雪とたたかう人々の技術の伝承ー

受賞者： 北海道エアポート株式会社、地崎道路株式会社 北海道支店

受賞理由：

新千歳空港は、北海道にある他の 6 つの空港とともに民営化され、2020 年 6 月から北海道エアポート株式会社(HAP)が運営しています。2019 年には、国内線、国際線あわせて全国第 5 位の 2,460 万人が利用していました。

HAPと除雪事業を受託する地崎道路株式会社の「除雪部隊」は、面積が 275 ヘクタールにおよぶ滑走路の除雪を担っています。除雪部隊はおよそ 200 名の作業員から構成されています。そのうちの 6~7 割の人が空港近郊の農業従事者でもあり、年間を通じて除雪チームごとに交流を深めながら、経験豊富な作業員から技術が伝承されます。降雪状況、雪質などを短時間で判断し、除雪の時間、回数および方法が決められます。離発着する航空機の定時運航を確保することが前提となるため、除雪作業は、常に時間との闘いでもあります。

除雪部隊のメンバーは「当たり前のように航空機が離発着する状態」を見て達成感を味わい、空港利用者が「何事もなく飛行機を利用できる日常があること」に誇りを抱いています。

しかし、空港現場の労働者不足は深刻であり、除雪作業も例外ではありません。技術の伝承とともに、除雪作業の省力化、自動化のための実証実験や、雪質の分析の高度化も研究されています。

雪から航空インフラの安全を守るという仕事に従事する 2 社の活動は、理想的な交通社会の実現に寄与するという当学会の活動趣旨と合致することから、学会賞(業績部門)として相応しいと判断いたしました。

《著作部門》

当部門は、理想的な交通社会の実現に関して、過去 2 年間に初版として刊行された優れた著作・出版物の中から選考される。

今年度は 38 点について査読、審査したが、残念ながら候補を選出するには至らなかった。

《論文部門》

当部門は、国際交通安全学会誌(IATSS Review)及び英文論文集(IATSS Research)に掲載された論文の中から選考される。

本年度は、「IATSS Review」Vol.46,No2・Vol.46,No3・Vol.47,No1 に掲載された論文・論説 16 編および「IATSS Research」Vol.45,Issue3・Vol.45,Issue4・Vol.46,Issue1・Vol.46,Issue2 に掲載された論文 61 編について各委員が分担で査読をし、絞り込みを行い審査した結果、3 編が選出された。

出典:第 44 回国際交通安全学会賞パンフレット

論文名 : 『諸国御客船帳』にみる近世の海運業
— 讃岐国粟島と若狭国早瀬をめぐる海上文化史 —

受賞者 : 河原 典史

受賞理由 :

日本近世の海運においてきわめて重要な役割を果たした北前船を対象に、その寄港地である讃岐国の粟島、および若狭国の早瀬という場に焦点を合わせることで、きわめて魅力的な「海上文化史」を描いています。

具体的には、石見国浜田外ノ浦・清水家所蔵の『諸国御客船帳』、これは、いわば廻船問屋の得意先の客船名簿ですが、その綿密な分析をベースとして、粟島と早瀬における海運業の諸相が近代までのパースペクティブをもって、叙述されています。

『客船帳』が、清水屋を媒介とする広域の商品流通の諸相を全国的・経年的に把握できる貴重な史料であることが、豊富な事例をわかりやすく解説することで一般読者にとっても説得的に提示されています。例えば、『客船帳』によれば、粟島出身の船頭が、大坂船や松前船で沖船頭として雇われており、また別の史料からは、幕府軍艦の北洋航海にも、粟島出身の士官 1 名とともに粟島商人 2 名が乗船するなど、粟島海運業者は広域かつ多様に活動していたことがわかります。

若狭早瀬浦についても、浜田・早瀬間の売買荷の実相が、経済面のみならず文化面にも着眼しつつ描かれます。若狭地方で祝魚として需要の多い塩シイラは、遠方である浜田からも調達されていました。安政期に『客船帳』に登場する早瀬の船主・岩野弥右衛門が、明治期にロシアのウラジオストックで岩野遠洋漁業社を設立するなど、海運業の歩みは近代へと継承されていきました。そしてまた、早瀬を含む現在の美浜町域は、明治期にカナダへの移民を送り出した地域でもあります。そこでは、福井市出身の幹旋会社幹部や契約移民が「海の向こうを知る力」を受け継ぎ、異国で鉄道交通を支えていたという、知られざる文化史の紹介で文章が結ばれています。

日々の交通課題への取り組みにとって、少し立ち止まって考えることの重要性をいう「交通の歴史と文化」特集への寄稿として時宜にもかない、そして交通を中心とした学際性を重視する本学会における学会賞(論文部門)にまことに相応しいと評価いたしました。

論文名 : 混んでいる時ほど高い料金？

－フランス鉄道の差別料金制度の文化的背景－

受賞者 : 栗田 啓子

受賞理由 :

フランスにおいて都市間鉄道の時間帯・曜日別運賃が広く支持されている要因を2種類の社会・文化的側面から解明したものです。第一の側面は、フランスでは、通勤・通学客を主体とする都市内交通と、観光客を主体とする都市間交通が明確に区別されていること、第二の側面は、フランスに固有の政府のエンジニアが公共交通の価格設定や差別料金の理論化に取り組み、差別料金が社会全体の利益に貢献することが説得力を持って示されたことと結論づけています。

本論説により、フランスの鉄道の差別料金制度は、政府エンジニアによる公平と効率の両立の2つの考え方を止揚するような目的－受益者負担ではあるが、企業収益の最大化ではなく(交通路から得られる)社会全体の利益の極大化－を持っていることが解明されました。差別料金制度と価格弾力性の議論は、コロナ禍で労働形態が大きく変化した日本の通勤・通学および観光において、今後の需要の価格弾力性を議論する際に基盤的な知見を与える社会的に有用なテーマです。また、フランスの鉄道整備の歴史を踏まえつつ、差別料金の理論化の流れを体系的に解明するアプローチを取っており、学際的である上に、交通経済学の解説としても優れた特徴を備えています。さらに特筆すべきは、論旨がきわめて明快で分かりやすいことです。

このように、この論説は、きわめて優秀であると評価いたしました。

論文名 : International and intercultural differences in arguments used against road safety policy measures

受賞者 : Wouter Van den Berghe, Nicola Christie

受賞理由 :

交通安全分野の政策(policy)施策(measures)は、いくつかの理由から容易には実施できない場合や、予想される高コストや世論の低支持を理由に政策立案者がその実施に消極的な場合があります。ここでは、このような交通安全政策施策に対する支持・不支持の要因を分析するために、特徴の異なる10カ国で調査を実施しています。調査では、回答者に対して10種類の交通安全施策が提示され、それを支持するか反対するか、その意見はどのような論拠に基づいているか、その対策が個人に及ぼす影響とは何か、といった質問項目が含まれ、様々な道路利用者を対象として様々な種類のトレードオフを網羅することで多面的に要因分析が出来るように工夫されています。

分析結果から、全体的な知見として各政策手段への支持傾向、交通安全に関する見解との関連、運転行動との関連について相関を示すとともに、ラベリング分析から「移動の制限」、「差別」ならびに「国家介入の不当性」という政策支持に対して強い負の相関のある項目については、分析をさらに掘り下げ、「自動最高速度制限システム」など3つの具体的政策への支持・不支持の論理構造を整理しています。

このように、本論は、政策に対する具体的な反論と対策への支持・不支持との論理構造が示されるなど、今後、政策立案者が対策を展開する際に有用な結果も示されています。多様な国々および地域を比較することで、多様性の中での交通安全施策の実施に繋がる国際的かつ学際的な知見を含んでおり、本学会の学会賞(論文部門)に相応しいと判断いたしました。

3. 令和4年度褒賞助成部会企画委員会

1)委員会開催実績

第1回委員会(R4.07.11)

- ・第43回学会賞贈呈式開催報告
- ・年間活動スケジュールについて
- ・「業績部門」「著作部門」の募集と、各部門の選考方法について
- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」査読の割り振り
- ・「論文部門」査読の割り振り
- ・審査基準について
- ・創立50周年に向けて
- ・推薦文・経過報告用文章について

第2回委員会(R4.10.14)

- ・矢ヶ崎先生レクチャー(瀬戸内芸術祭について)
- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」審査および査読の割り振り
- ・「論文部門」審査
- ・創立50周年に向けて
- ・今後の体制について(委員長より提案)

第3回委員会(R4.12.09)

- ・「業績部門」候補の検討
- ・「著作部門」審査
- ・「論文部門」審査
- ・視察日程について

第4回委員会(R5.01.19)

- ・「業績部門」候補、推薦文担当決定
- ・「著作部門」候補(該当なし)
- ・「論文部門」候補、推薦文担当決定
- ・今後の体制について(委員長より提案)

2)ヒアリング・視察

- ・瀬戸内国際芸術祭について瀬戸内国際芸術祭実行委員会にヒアリング(R4.11.16)
- ・新千歳空港除雪隊について北海道エアポート(株)にヒアリング(R4.11.21)
- ・新千歳空港視察(R5.01.24)
- ・直島視察(R5.01.28)

3)会員信任投票

候補信任(R5.02.13 締切)

4)理事会

候補承認(R5.03.01)

5)褒賞助成部会企画委員会メンバー(敬称略)

委員長	小川 和久	(IATSS 会員/東北工業大学総合教育センター 教授)
	加藤 一誠	(IATSS 会員/慶應義塾大学商学部 教授)
	斎藤 誠	(IATSS 会員/東京大学大学院法学政治学研究科 教授)
	関根 太郎	(IATSS 会員/日本大学理工学部機械工学科 教授)
	藤井 聡	(IATSS 会員/京都大学大学院都市社会工学専攻 教授)
	松橋 啓介	(IATSS 会員/(国研)国立環境研究所社会システム領域 室長)
	矢ヶ崎 紀子	(IATSS 会員/東京女子大学現代教養学部国際社会学科コミュニティ構想専攻 教授)

IV IATSS フォーラム事業

国際交流も踏まえた研修事業として、1985年9月に設立され、アジア諸国の若い有望な人材を日本に招請し、各参加国での持続可能な社会の実現に寄与する人材の育成を進めている。

昨年度に引き続き、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、春期開催は延期。秋期開催を目指し、準備を進めたが、第7-8波による感染拡大により、やむを得ず中止を判断。その結果来日を予定していた10ヶ国40名の研修生が入国できず、春期/秋期の年2回を計画していたフォーラム研修を実施できなかった。

IATSS フォーラム実行委員会では、3年間自国にて待機状態にある研修生への対応について継続検討を行い、来年度確実な春期秋期開催を保証するため、感染リスクを最小限にすべく短縮化を検討。また、IATSS フォーラム研修の進化、IATSS 本体のリソースを更に活用すべく、交通・モビリティ系のテーマを題材とした研修コンテンツ開発に着手しており、来年度開発完了に向け推進する。事業各項目の内容は以下のとおりである。

1. IATSS フォーラム研修 開催中止

新型コロナウイルス感染症の影響で研修生が日本に入国できず、令和3年度に引き続き令和4年度もIATSS フォーラム研修を開催中止した。来日を予定していた研修生40名については、令和5年度以降に開催を計画しているIATSS フォーラム研修へ振替を行う。

また、国際同窓会については、日本を含むアジア各国での新型コロナウイルス感染症の影響が未だ不透明であることを受けて、オンラインにてシンガポール同窓会主催で開催した。

2. 研修コンテンツ開発

IATSS 本体のリソースをこれまで以上に活用し、交通安全やモビリティに関するコンテンツを主とした研修プログラムの開発計画を作成した。選出されたワーキンググループを中心に開発を推進し、令和6年度の研修を導入目標としている。各国関係者からの賛同協力を得るため、令和5年10月末にフォーラム国際委員長会議を開催し、新コンテンツ研修プログラム導入の説明を実施予定。

国際委員長会議で受けた意見・アドバイスを反映し、令和5年度中の開発完了を図る。

3. IATSS フォーラム部会 IATSS フォーラム実行委員会

1)委員会開催実績

令和4年度は、6回の実行委員会を開催した。

第151回実行委員会(R4.06.01)

- ・コロナ禍における入国制限状況について内容共有
- ・秋期フォーラム開催判断と条件について審議
- ・研修施設について内容共有
- ・新プログラム構成について議論

第 152 回実行委員会(R4.08.29)

- ・各国コロナ感染状況と秋期フォーラム開催について審議、中止決定
- ・秋期フォーラム開催予定の参加研修生情報について内容共有
- ・秋期フォーラム開催予定のプログラムについて内容共有
- ・新プログラムの開発体制と役割責任の議論

第 153 回実行委員会(R4.11.17)

- ・新プログラムの開発体制とコンセプトについて議論

第 154 回実行委員会(R4.12.28)

- ・新プログラムのコンセプト詳細について議論

第 155 回実行委員会(R5.02.07)

- ・令和 5 年度研修開催時期について審議
- ・同窓会プロジェクトの審議
- ・IATSS フォーラムにおける不変的価値について議論
- ・目指すリーダー像とそのプロセスについて議論
- ・研修構成について議論
- ・IATSS が取り組むテーマについて確認
- ・IATSS 研究調査プロジェクト直近 10 年の項目について確認

第 156 回実行委員会(R5.03.22)

- ・国際委員長会議の計画について内容共有
- ・同窓会プロジェクトの審議
- ・新プログラムコンテンツ開発ワーキンググループ打診結果について内容共有
- ・IATSS フォーラム 不変的価値の表現変更について内容共有

2)IATSS フォーラム実行委員会メンバー(敬称略)

委員長 北村 友人 (IATSS 会員/東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化専攻 教授)

鈴木 弘司 (IATSS 会員/名古屋工業大学社会工学科 准教授)

中村 彰宏 (IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)

平岡 敏洋 (IATSS 会員/日本自動車研究所 新モビリティ研究部 主席研究員)

IATSS フォーラム部会特別委員

足立 文彦 (金城学院大学 名誉教授)

溝田 勉 (長崎大学 名誉教授)

3)現地委員会

例年は IATSS フォーラム研修生選抜のために、現地委員会主導で書類審査/最終面接審査を実施しているが、新型コロナウイルスの影響により令和 3 年度に引き続き、令和 4 年度も研修を実施できず、予定していた研修生を来年度に繰り延べしたため、新たな研修生の選抜は実施しなかった。

- (1) IATSS フォーラム インド委員会
委員長 Geetam Tiwari (インド工科大学教授)
事務局 Bhawana Luthra (LEAD インディア)
- (2) IATSS フォーラム インドネシア委員会
委員長 Abdi Hamudani (セメント製造販売会社 人材開発マネージャー、46 回生)
事務局 Henky Sumardy (アストラホンダモーター財団)
- (3) IATSS フォーラム カンボジア委員会
委員長 H.E. Var Kim Hong(カンボジア国境局左大臣)
事務局 Nuon Kossoma (CJCC 人材開発)
- (4) IATSS フォーラム シンガポール委員会
委員長 George Abraham (GA グループ Ltd. 会長兼代表取締役)
事務局 Jenny Ng (NUSS)
- (5) IATSS フォーラム タイ委員会
委員長 Chalermchai Papata (天然資源環境省 DEQP 長官)
事務局 Bajaree Saguanwongse (天然資源環境省 DEQP)
- (6) IATSS フォーラム フィリピン委員会
委員長 Maridon Onda Sahagun (科学技術省 事務次官補)
事務局 Leonard Ladiero (科学技術省)
- (7) IATSS フォーラム ベトナム委員会
委員長 Vo Dai Luoc (ベトナム太平洋経済センター VAPEC 会長)
事務局 Nguyen Canh Binh (ベトナム インテレクチャル コーポレーションセンター)
- (8) IATSS フォーラム マレーシア委員会
委員長 Dato' Zuraidah Atan (ズライダーアタン弁護士事務所代表、21 回生)
事務局 Rofina Yasmin Othman (マラヤ大学 UM ICE)
- (9) IATSS フォーラム ミャンマー委員会
委員長 Zaw Min Win (ミャンマー商工会議所連合 会頭)
事務局 Pyai Pyai Pwint (ミャンマー商工会議所連合会、47 回生)
- (10) IATSS フォーラム ラオス委員会
委員長 Vanhpheng Khounbolay (ラオス青年同盟 職業訓練部副部長)
事務局 Sisomphone Tipanya (ラオス青年同盟)

V 国際交流事業

1. 国際フォーラム実行委員会

1)第8回 GIFTS 開催概要(敬称略)

①シンポジウム(公開):「価値を創造する交通文化」

日時 : 令和4年11月29日(火) 13:30-16:30
場所 : 大手町プレイスカンファレンスセンター
開催形式 : ハイブリッド(会場参加・リモート参加)
開会挨拶 : 武内 和彦(IATSS 会長)
趣旨説明 : 中村 彰宏(IATSS 会員)
講演・司会 : 中村 文彦(IATSS 会員)
パネリスト : ズザンネ・エルファディング氏(翻訳・通訳者、ドイツ SRL 会員、
ハンブルグ州交通省所属)
ピムスク・サニット氏(タイ・チュラロンコーン大学講師)
ヴァンソン藤井由美氏(著述家・フランス都市政策研究者)
参加者 : 253名(会場52名、リモート201名)

②ワークショップ(非公開):「回顧・賞賛から展望へ(Beyond 50のあるべき姿に向けて)」

日時 : 令和4年11月30日(水) 14:30 ~ 17:45
場所 : 大手町プレイスカンファレンスセンター
開催形式 : ハイブリッド(会場参加・リモート参加)
趣旨説明 : 土井 健司(IATSS 会員)
話題提供1 : 谷川 武(IATSS 会員)「回顧の観点から研究調査プロジェクトについて」
話題提供2 : 中村 彰宏(IATSS 会員)「会員・顧問へのReputation Surveyの結果について」
話題提供3 : 小川 和久(IATSS 会員)「賞賛の観点から褒賞の新領域について」
話題提供4 : 上條 俊介(IATSS 会員)「50周年記念出版について」
プロジェクト報告:鈴木春男(IATSS 顧問)、太田勝敏(IATSS 顧問)、赤羽弘和(IATSS 顧問)、
久保田尚(IATSS 理事)、中村英樹(IATSS 会員)、今井猛嘉(IATSS 会員)、
上條俊介(IATSS 会員)、福田敦(IATSS 顧問)、北村友人(IATSS 会員)、
吉田長裕(IATSS 会員)、谷川武(IATSS 会員)、中村文彦(IATSS 会員)
参加者 : 30名(会場20名、リモート10名)

2)委員会開催実績

第1回実行委員会(R4.05.09)

・第8回 GIFTS についての討議

第2回実行委員会(R4.07.04)

・シンポジウムの開催形式について
・シンポジウムの時間配分等について
・ワークショップの構成・内容について

第3回実行委員会(R5.01.30)

- ・第8回GIFTSの振り返りについて
- ・第9回GIFTSの位置づけ、方向性について

第4回実行委員会(R5.03.02)

- ・第9回GIFTSのテーマ、開催日程について

3)IATSS 国際フォーラム(GIFTS)実行委員会メンバー(敬称略)

委員長	中村 彰宏	(IATSS 会員/中央大学経済学部 教授)
委員	大口 敬	(IATSS 会員/東京大学生産技術研究所 教授)
	中村 英樹	(IATSS 会員/名古屋大学大学院環境学研究科 教授)
	堀口 良太	(IATSS 会員/㈱アイ・トランスポート・ラボ 代表取締役)
	馬奈木俊介	(IATSS 会員/九州大学大学院工学研究院 教授)
	森本 章倫	(IATSS 会員/早稲田大学理工学術院創造理工学部社会環境工学科 教授)
	吉田 長裕	(IATSS 会員/大阪公立大学大学院工学研究科 准教授)

2. ATRANS への業務委託

(1)業務委託

下記の6テーマの業務委託研究を実施した。

- ①Road Traffic Accidents caused by the increased number of delivery service riders during the Pandemic: An Empirical Study in Bangkok Metropolitan and Vicinity
- ②Successes, failures, and futures of shared micro-mobility services in Bangkok
- ③Integration of Road Safety Education with Engineering Design for Safer Routes to School,Phase 2
- ④An Optimized Design of Roundabout for Safety Enhancement on Road Users: A Case Study of Suranaree University of Technology
- ⑤Disseminating and Exploring the Potential Role of Social Media in Promoting Road Safety among Risk-Taking Youngsters and Youths (Phase II)
- ⑥Intention of Activity-From-Home and Travel after the COVID pandemic

<中間報告会>

開催日：令和4年8月27日
形態：ハイブリッド開催
会場：Chatriu Hotel Riverside Bngkok

<最終報告会>

開催日：令和5年1月19日
形態：ハイブリッド開催
会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 丸の内

(2)カンファレンス共催

イベント名： 15th ATRANS Annual Conference (Symposium)

テーマ： “Transportation for a Better Life:
Resiliency, Sustainability, and Safety in Transportation System”

開催日： 令和4年8月26日

形態： ハイブリッド開催

場所： Chatriu Hotel Riverside Bngkok

共催内容： ・オープニングセッション ウェルカムメッセージ
・IATSS 会員のセッション講演(2名)

3. ESRA3 プロジェクトへの参画

(1)研究目的と概要

平成30年度より当学会は「ベルギー道路交通安全研究所」“Vias institute”がとりまとめ/調整を行っている国際プロジェクト“ESRA”に日本の研究機関として参加している。すでに ESRA2 展開において、48 か国約 45,000 人の道路利用者を対象とした意識調査を実施し、各国の規範意識及び交通行動の客観的データが集計・分析され、交通安全施策に資する報告書を作成した。

令和3年度より3か年計画の ESRA3 が開始となり、令和4年度調査実施に向けた調査企画と社会公表方針などの企画が始まっており、当学会は主要メンバーとして企画会議(オンライン)に参加した。

(2)実績

・The International ESRA Conference on Traffic Safety Culture and Performance Indicators (R4.04.21)

カンファレンスにリモート参加

・23rd International Council on Alcohol, Drugs and Traffic Safety (R4.08.29-30)

ウェビナーにリモート参加

・ESRA3 Meeting (R4.09.08-09)

現地にて、Meeting に参加

ESRA3 調査展開に向けた準備状況を把握

今後のタスクの役割分担における交渉

National Partner 同志の交流と情報共有

・RS5C(Road Safety Five Continents) 2022(R4.10.10-12)

ウェビナーにリモート参加

・ESR3 アンケート(R5.01.17-26)

日本アンケート分、英語から日本語への翻訳を実施

4. 海外研究機関等とのネットワークの強化

(1) 目的と概要

創立 50 周年に向けた国際性強化の取り組みの一環として、従来事務局主導で進めてきたネットワーク維持・強化活動を GRATS 交流部会の活動の一部と位置付け、会員も参加した。令和 4 年度は国際ワークショップ、シンポジウム等に参加することで、今世界で注目されている課題やキーワードを整理するとともに、ネットワーク強化を行った。

(2) 実績

- Safety 2022 in Australia (R4.11.27-30): オーストラリア
ウェビナーにリモート参加
- Global Alliance of NGOs for Road safety (R5.03.06-10): エルサルバドル(サンサルバドル)
現地にて、ワークショップ・シンポジウムに参加
参加 NGO とのネットワーク強化を行った
Global Alliance of NGOs for Road safety メンバーとのミーティングを実施、情報交換・ネットワーク強化を行った
- アメリカンホンダ DC オフィス (R5.03.13): アメリカ(ワシントン)
現地にて、アメリカンホンダ DC オフィスメンバーとのミーティングを実施、情報交換・ネットワーク強化を行った
- 世界銀行 (R5.03.13): アメリカ(ワシントン)
現地にて、世界銀行メンバーとのミーティングを実施、情報交換・ネットワーク強化を行った
- Transforming Transportation (R5.03.14-15): アメリカ(ワシントン)
現地にて、ワークショップに参加
参加 NGO とのネットワーク強化を行った

V 事業運営等

1. 新型コロナウイルス対応

新型コロナウイルス罹患防止の観点から、感染リスクの最小化のためにイベントの中止、開催形態の変更等を行った。

- ・内部報告会・研究成果報告会:リモートによる開催
- ・学会賞贈呈式:リモートによる開催
- ・IATSS フォーラム春期、秋期両研修の中止
- ・年次交流会の中止

なお7月より、コロナ禍の影響が徐々に低下したことを受け、段階的に通常活動に移行した。

- ・委員会/研究会等をリモート会議での開催から、集合・ハイブリッド形式へ
- ・国内/海外出張の再開
- ・事務局業務は基本を事務所出勤とした勤務へ

2. IATSS の主たる事務所(ホンダ八重洲ビル3階)の移転

IATSS の主たる事務所が入居しているホンダ八重洲ビルが、八重洲地区再開発事業に伴い解体されることになり、現在の事務所から別の場所への仮移転が必要となったことに伴い、仮移転先を選定し、移転準備を行った。

仮移転先:東京都中央区八重洲2-1-1 YANMAR TOKYO 6階
(令和5年4月17日より稼働開始)

なお、現在のホンダ八重洲ビルを含む地域の再開発により大型ビルが建設予定となっており、竣工後はそちらに戻る予定。(令和11年度)